MINOLTA

The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE Viewer

J 使用説明書

準備から起動まで
基本操作
画像を補正する
ファイルの編集
動画を補正する
便利な機能
その他

お買い上げありがとうございます。
DiMAGE Viewer（ディマージュビューアー）は、ミノルタのデジタルカメラで撮影した画像を表示・補正・保存を行なうためのソフトウェアです。
ご使用前にこの使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

◆Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
◆Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating Systemです。
◆Pentium®は、米国インテル社の登録商標です。
◆IBM、IBM-PC/AT、PowerPCは、米国International Business Machines Corporationの商標です。
◆Apple、Appleロゴ、Mac、Macロゴは、米国およびその他の国で登録されているApple Computer, Inc.の登録商標です。QuickTime、Power Macは、米国およびその他の国におけるApple Computer, Inc.の商標です。
◆NEC、PC98-NXは、日本電気株式会社の商標です。
◆その他の会社名・製品名は、一般に各社の商標・登録商標です。

●本書の内容の一部、または全部を無断転載することを禁止いたします。
©2002ミノルタ株式会社
●本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
●本製品を運用した結果については、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

ご使用になる前に

この使用説明書の表記について

◆本書は、お客様がお使いのパーソナルコンピュータにオペレーティングシステム（Windows®98/98SE/Me/2000/XP、Mac OS）やデバイスドライバなど必要なソフトウェアがすでにインストールされており、かつ正常に動作していることを前提に記述しています。

◆本書では主としてWindows®版ソフトウェアでの画面表示を用いて説明しています。Windows®版とMacintosh版では、多少のボタン類のレイアウトを除いて、その画面表示に大きな差異はありません。

◆本書はマウス操作を基本として説明しています。Windows®の2ボタンマウスについては「右きき用」に設定しているものとして説明しています。
またWindows®の2ボタンマウスにおいて「クリックします」「ダブルクリックします」と表記している場合、それはマウスの「左ボタン」をクリックまたはダブルクリックする操作を表します。「ドラッグします」と表記してある場合は、「マウスの左ボタンを押したままマウスを動かす」操作を示します。

◆MacintoshにおいてCommand（コマンド）キーとは、スペースキーの両横の、キーボード上に⌘が描かれているキーのことを言います。

Windows®XP/2000 Professionalをお使いの場合

◆本ソフトウェアは、Windows®XPでは管理者（Administrator）権限の環境下で、Windows®2000 Professiomalでは、管理者（Administrator）権限、または、標準ユーザー（PowerUsers）権限の環境下でご使用ください。制限ユーザー（Users, Guests）権限の環境下では、本ソフトウェアは正しく動作しません。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。弊社ホームページ http://www.dimage.co.jp/register/ でオンライン登録ができます。

目次

準備から起動まで
このソフトウェアをインストールし、起動させるところまでを説明しています。

必要なシステム環境 4
インストール（Windowsの場合）..... 5
インストール（Mac OS 9.xの場合）..... 8
インストール（Mac OS Xの場合）..... 10
ソフトウェアの起動 12

基本操作
画像を表示させ、保存する方法を説明しています。

サムネイルウィンドウ表示..... 14
ファイルの種類と場所について 19
ファイル一覧を表示する..... 20
ファイル一覧の表示を変更する 21
撮影情報を表示する 23
画像ビューを表示する..... 26
ビューウィンドウ表示..... 27
画像を回転・反転する..... 32
画像を拡大・縮小する..... 34
表示位置を変更する 35
画像サイズを変更する..... 36
画像ファイルを保存する..... 37
画像をプリントアウトする..... 42

画像を補正する
画像の色やコントラスト等を調整する方法、およびそれを補助する機能について説明しています。

トーンカーブ･ヒストグラム補正 46
トーンカーブ補正 48
白点･黒点･グレースポイトによる補正..... 51
ヒストグラム補正 54
明るさ･コントラスト･カラーバランス補正 57
色相･彩度･明度補正 58
バリエーション補正 59
スナップショット（画像の一時保存）..... 63
画像補正ジョブ 64
補正前後の画像の比較をする･画像全体を表示する.. 65
シャープネス 66
バッチ処理..... 68
RAWファイルの色調補正..... 70
文書画像処理..... 75

ファイルの編集
ファイルのコピーや削除、名前の変更など、ファイル編集に必要な操作について説明しています。

ファイルを移動する 78
ファイルをコピーする..... 79
ファイルを削除する 80
ファイル名を変更する..... 81
フォルダを作成する 82
ファイル名を一括で変更する（一括リネーム）.... 83

動画を補正する

動画の編集や補正の方法について説明します。

動画の表示 84
動画の編集 85
動画の保存 87
フリッカー補正 88
動画補正 91

便利な機能

ほかのアプリケーションをDiMAGE Viewerから起動するための登録機能について説明しています。

アプリケーション登録 96
ビューアの登録 97
音声ファイル再生アプリケーションの登録 99
登録したアプリケーションを呼び出す... 101

その他

カラーマッチング 102
対応ファイルの一覧 112
ユーザーサポートについて 113

本書は、パーソナルコンピュータの基本的な操作方法、およびWindows/Mac OS等のオペレーティングシステムの使い方については説明しておりません。これらについては、パソコンに付属のマニュアル等をご覧ください。

必要なシステム環境

このソフトウェアをお使いいただくには、以下のシステム環境が必要です。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機、 NEC PC98-NXシリーズ	Apple Macintoshシリーズ
CPU	Intel Pentium-133MHz以上	PowerPC-100MHz以上 （Mac OS互換機を除く）
OS	対応OSについては、ディマージュビューアーCD-ROMのレーベル面に記載してありますので、そちらをご覧ください。	
必要メモリ	64MB以上の実装メモリ Windows®XPの場合は 128MB以上の実装メモリ	128MB以上の空きメモリ
ハードディスク空き容量	インストール後に200MB以上	インストール後に200MB以上
モニター	800 × 600 ドット以上 （1024 × 768 ドット以上を推奨） True Color（24ビットカラー）以上	800 × 600 ドット以上 （1024 × 768 ドット以上を推奨） 1670万色（24ビットカラー）以上
その他※2	・動画を扱う場合は QuickTime 5 以上がインストールされていることが必要※3 ・CD-ROMドライブ装備（インストール時に必要）	・QuickTime 4 以上がインストールされていることが必要※3 ・CD-ROMドライブ装備（インストール時に必要）

※1 Windows®98 で Internet Explorer 4.x をお使いの場合は、Internet Explorer 5以降にバージョンアップしてください。詳細はマイクロソフト社にお問い合わせください。

※2 カメラ内の画像を直接取り扱う場合は、USBポートも必要です。詳しくはカメラ本体の使用説明書をご覧ください。

※3 QuickTimeをインストールする際は、インストール中に現れる【インストール種類の選択】画面で「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」でインストールした場合、一部機能が正常に動作しません。

インストール（Windowsの場合）

このソフトウェアをお使いいただくには、まずお使いのパソコンにインストールする必要があります。

- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Windows®XP/2000 Professionalをお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。
- 旧バージョン(Ver.2.1以前のバージョン)のDiMAGE Viewerがすでにインストールされている場合は、本ソフトウェアのインストール前に旧バージョンをアンインストールされることをおすすめします。アンインストールは、［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の【アプリケーションの追加と削除】（Windows®XPでは［スタート］→［コントロールパネル］の【プログラムの追加と削除】）で行なってください。

1. ディマージュビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

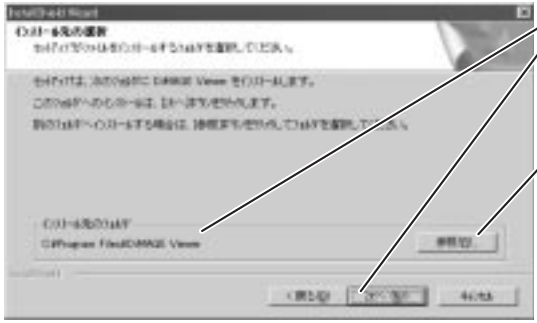
- 左の画面が現れます。

2. [DiMAGE Viewer インストーラの起動]をクリックします。

3.「DiMAGE Viewer用のInstallShield Wizardへようこそ」の画面が現れたら、[次へ>]をクリックします。

4. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は[はい]をクリックします。

- 同意しない場合、[いいえ]をクリックしてください。インストールは中止されます。

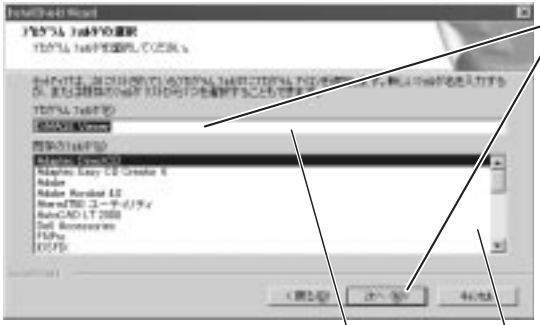


5.左の画面が現れたら、インストール先を確認し、[次へ>]をクリックします。

- 初期設定では、起動ディスクドライブの"Program Files"の中にインストールされます。変更する場合は、[参照...]をクリックし、インストール先のフォルダを指定した後、[OK]をクリックしてください。

6.セットアップタイプの選択画面が表示されます。セットアップタイプを選択し、[次へ>]をクリックします。

- セットアップタイプには、「DiMAGE Viewer+通信設定ウィザード」または「DiMAGE Viewerのみ」を選択してください。
- 通信設定ウィザードの使用方法については、通信機能を備えた当社製デジタルカメラ（DiMAGE 7Hi、DiMAGE 7i、DiMAGE 7、DiMAGE 5）本体の使用説明書をご覧ください。



フォルダ名を変更するときはここに入力

既存のフォルダに追加するときはここで選択

7.アイコンを追加するフォルダ名が表示されます。場所を確認し、[次へ>]をクリックします。

- インストールが開始されます。
- 初期設定では、画面左下の[スタート]-[プログラム]の中に[DiMAGE Software]フォルダが作成されます。

8.インストールが完了したら、[完了]をクリックします。

9.5ページの画面に戻ったら、[終了]をクリックします。

インストール（Mac OS 9.x の場合）

このソフトウェアをお使いいただくには、まずお使いのパソコンにインストールする必要があります。

- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。

1. ディマージュビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 自動的にCD-ROMの内容が表示されます。

2. [Utility]フォルダをダブルクリックして開き、続いて[for OS9]フォルダを同様に開きます。

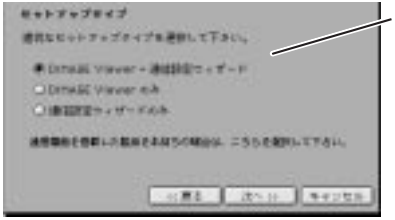
3. [Japanese]フォルダをダブルクリックして開きます。

4. [Installer]をダブルクリックします。

5. 右の画面が現れたら、[次へ>>]をクリックします。

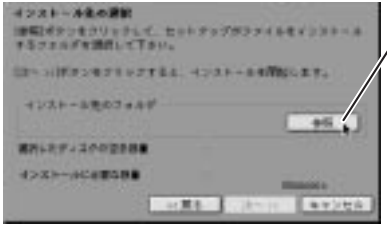
6. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は[はい]をクリックします。

- 同意しない場合、[いいえ]をクリックしてください。インストールは中止されます。



7.セットアップタイプの選択画面が表示されます。セットアップタイプを選択し、[次へ>>]をクリックします。

●セットアップタイプについては、6ページをご覧ください。



8.左の画面が現れたら、[参照]をクリックしてインストール先を指定します。

●下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の[選択]をクリックしてください。

9.指定後、画面下の[次へ>>]をクリックします。

●インストールが開始されます。

10.インストールが完了したら[完了]をクリックします。

●[完了]をクリック後、開いているウィンドウを閉じて、CD-ROMを取り出します。

インストール（Mac OS Xの場合）

このソフトウェアをお使いいただくには、まずお使いのパソコンにインストールする必要があります。

- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Mac OS X搭載機種へのインストールは、管理者（root）としてログオンした状態で行なってください。

1. ディマージュビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROMのアイコンをダブルクリックして開き、その中の[Utility]フォルダ、続いてその中の[for OSX]フォルダを同様に開きます。

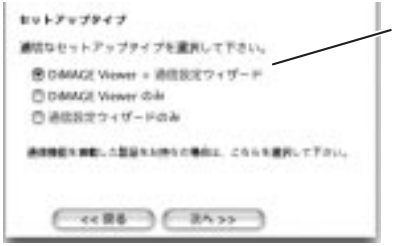
3. [Japanese]フォルダをダブルクリックして開きます。

4. [Installer]をダブルクリックします。

5. 右の画面が現れたら、[次へ>>]をクリックします。

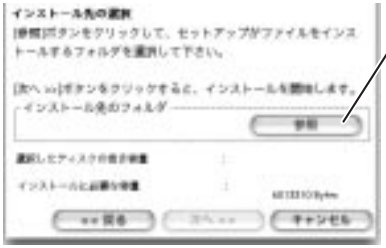
6. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は[はい]をクリックします。

- 同意しない場合、[いいえ]をクリックしてください。インストールは中止されます。



7. セットアップタイプの選択画面が表示されます。セットアップタイプを選択し、[次へ>>]をクリックします。

- セットアップタイプについては、6ページをご覧ください。



8. 左の画面が現れたら、[参照]をクリックしてインストール先を指定します。

- 下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の[選択]をクリックしてください。

9. 指定後、画面下の[次へ>>]をクリックします。

- インストールが開始されます。

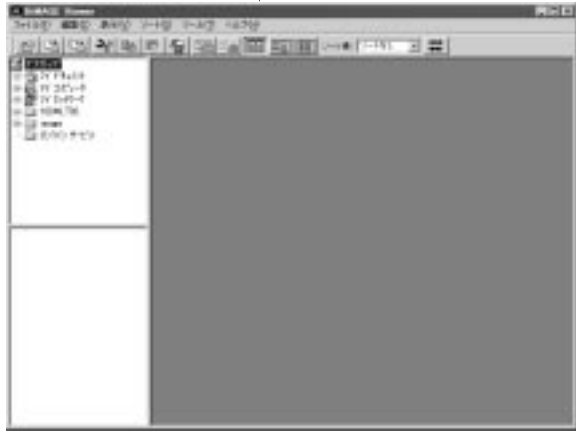
10. インストールが完了したら[完了]をクリックします。

ソフトウェアの起動

Windowsの場合

1. パソコンの電源を入れ、Windows®を起動させます。

2. [スタート]-[プログラム(P)](Windows®XPでは [すべてのプログラム(P)])-[DiMAGE Viewer]-[DiMAGE Viewer]を選択します。



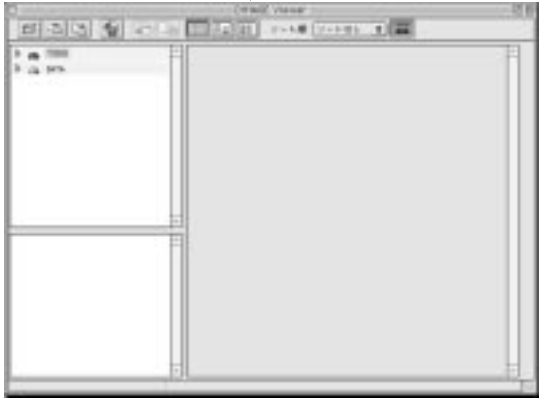
ソフトウェアを終了させるときは、[ファイル]-[終了]を選択するか、画面右上の ✕ をクリックします。

Macintoshの場合

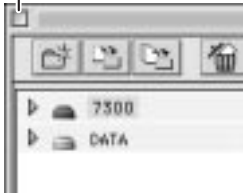
1. パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動させます。

2. ソフトウェアをインストールしたフォルダをダブルクリックして開き、同様に DiMAGE Viewer（または、DiMAGE Viewer for OSX）フォルダを開きます。

3. DiMAGE Viewerのアイコンをダブルクリックします。



ソフトウェアを終了させるときは、画面左上の■（Mac OS Xでは、画面左上の赤色の●）をクリックします。



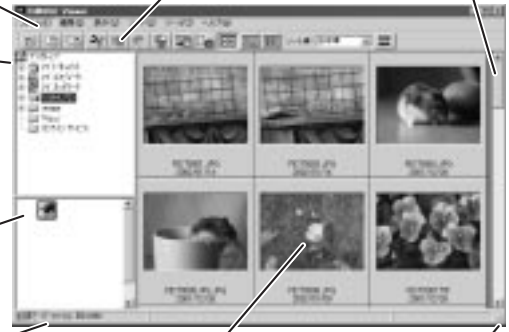
サムネイルウィンドウ表示

メニューバー
クリックすると、それぞれのメニューのプルダウンリストを表示します。

ツールバー
メニューの機能のいくつかをボタンとしてまとめています。

画像数が多い場合、ここで上下にスクロールできます。

フォルダツリー
ディスクドライブのフォルダの階層を表示します。フォルダ名を選択すると、フォルダ内の画像をサムネイルに表示します。



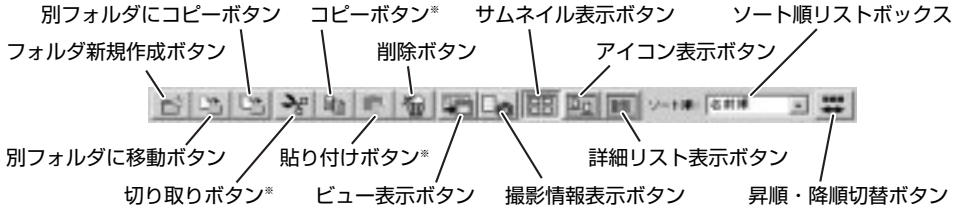
登録アイコン
初期設定メニューで登録したアプリケーションのアイコンを表示します。アプリケーションの登録については、96ページ「アプリケーション登録」をご覧ください。

ステータスバー
ファイル総数および総サイズを表示します。ボタンなどの上にカーソルを置いたときに、簡単な機能説明を表示します。

サムネイル表示領域
フォルダツリーから選択したフォルダ内のファイルをサムネイル表示します。

ドラッグするとウィンドウのサイズを変更できます。

ツールバーのボタン名称



※切り取り、コピー、貼り付けのボタンは、Macintosh版にはありません。

ツールとメニュー

サムネイルウィンドウでは、次のようなメニューを操作できます。

●ファイル

メニュー／対応ツールボタン	説　明
フォルダ新規作成	新規のフォルダを作成します。→P.82
ビュー表示	サムネイルから選択した画像をビューウィンドウで表示します。動画を選択した場合は、動画ビューアで表示されます。→P.26
音声再生	サムネイルから選択した画像にWAVファイルが付属している場合、音声ファイルを再生します。→P.99
アプリケーションを開く	サムネイルから選択した画像および動画を登録アプリケーションで開きます。→P.101
撮影情報表示	選択された画像の撮影情報を表示します。→P.23
表示項目設定	撮影情報表示で表示する項目を設定します。→P.24
撮影情報を保存	サムネイルから選択した画像の撮影情報を保存します。撮影情報は、CSV形式で保存されます。→P.25
初期設定	アプリケーションや画像ビューアを登録します。→P.96
カラー設定	カラーマッチング用設定を行います。→P.102
終了	DiMAGE Viewerを終了します。

●編集

メニュー／対応ツールボタン	説　明
別フォルダに移動 ※	選択したファイルやフォルダを別のフォルダに移動します。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルも一緒に移動します。→P.78
別フォルダにコピー ※	選択した画像を別のフォルダにコピーします。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルもコピーします。→P.79
クリップボードにコピー	選択した画像をクリップボードにコピーします。この操作でコピーできるファイルは、JPEG、TIFF、BMP、PICTファイルの４種類です。
名前の変更 ※	選択したファイルやフォルダの名前を変更します。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルの名前も変更します。→P.81
切り取り ※	選択したファイルやフォルダをコピーまたは貼り付けのために切り取ります（Windows版のみ）。また、ファイル名の編集で文字列の切り取りにも使用できます。選択したサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルも切り取ります。
コピー ※	選択したファイルおよびフォルダをコピーします（Windows版のみ）。また、ファイル名の編集で文字列のコピーにも使用できます。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルもコピーします。
貼り付け	コピーまたは切り取ったファイルやフォルダを貼り付けます（Windows版のみ）。また、ファイル名の編集で文字列の貼り付けにも使用できます。

削除 ※	選択したファイルおよびフォルダを削除します。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルも削除します。→P.80
すべて選択	サムネイル表示領域に表示されているすべてのサムネイルを選択します。

※選択したファイルが動画（MOV、AVI）の場合、それに付属するサムネイルファイルの別フォルダに移動、別フォルダにコピー、名前の変更、切り取り、コピー、削除は行われません。

●表示

メニュー／対応ツールボタン	説　明
ツールバー/ステータスバー/フォルダツリー/アプリアイコンペイン	チェックマークを付けた表示項目がサムネイルウィンドウに表示されます。
サムネイル表示 アイコン表示 詳細リスト表示	選択した方式でサムネイルを表示します。→P.21 サムネイル表示　：サムネイル画像で一覧表示します。 アイコン表示　　：アイコンで一覧表示します。 詳細リスト表示　：更新日付、ファイルサイズ付きのリストで一覧表示します。
サムネイルサイズ設定	サムネイル表示のサムネイルサイズを設定します。→P.21
最新の情報に更新	フォルダツリー、サムネイル表示を最新の情報に更新します。→P.22

●ソート

メニュー／対応ツールボタン	説　明
ソートなし/日付順 名前順/拡張子順	選択した並び順でサムネイルの表示を並び変えます。→P.22
昇順/降順	選択した並び順の昇順/降順を切り替えます。

●ツール

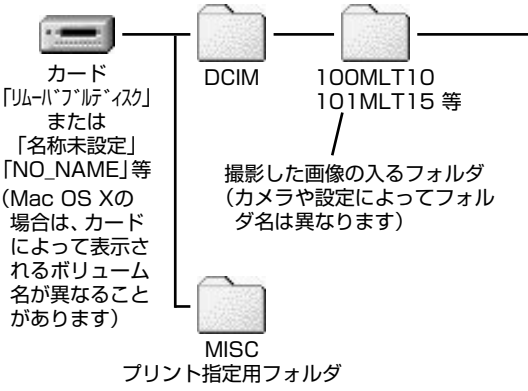
メニュー	説　明
一括リネーム	サムネイルから選択したファイルの名前を一括して変換します。→P.83
バッチ処理	サムネイルから選択した画像に対し、一括して画像補正をかけます。→P.68
動画補正	動画補正ウィンドウを開きます。→P.84

●ヘルプ

メニュー	説　明
バージョン情報	ソフトウエアのバージョン情報を表示します。

ファイルの種類と場所について

パソコンとカメラをUSBケーブルで接続すると、カメラ内のカードは通常、Windows®の場合は「リムーバブルディスク」のドライブ、Macintosh（Mac OS 9.x）の場合は「名称未設定」、Macintosh（Mac OS X）の場合は「NO_NAME」等のボリュームとして認識されます。
画像は、カード内の「DCIM」フォルダ内の「100MLT10」等のフォルダ内に保存されています。



PICT0001.JPG
エコノミー、スタンダード、ファイン、エキストラファインの場合、画像はJPEGファイルとして保存されています。

PICT0002.TIF
スーパーファインの場合、画像はTIFFファイルとして保存されています。

PICT0003.MRW
当社デジタルカメラ（RAW対応機種）で撮影したMinolta-RAWの場合、RAWファイルとして保存されます。拡張子には ".MRW" が付きます。

PICT0004.MOV
動画の場合、MOVファイルとして保存されています。

PICT0005.WAV
音声データの場合、WAVEファイルとして保存されています。

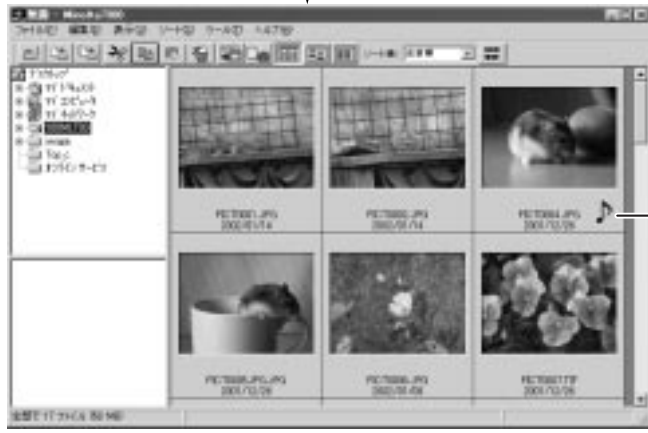
PICT0006.JPE / PICT0006.THM
撮影時にICCプロファイルが埋め込まれたJPEGファイルの場合、拡張子に ".JPE" が付いたファイルと、同名のサムネイルファイルが保存されます。

このソフトウェアでは、カメラ内のカードから直接ファイルを開くだけではなく、パソコンにコピー、または保存されたファイルも開くことができます。対応するファイルの形式と種類については、112ページの「対応ファイルの一覧」を参照してください。

ファイル一覧を表示する

1. フォルダツリーから、画像ファイルのあるフォルダをクリックします。

●左図のフォルダツリーは、デスクトップにあるフォルダを選択する場合を例に説明しています。



●フォルダ内の画像のファイル一覧が表示されます（サムネイル表示の場合）。

音声メモが付属しているファイルには、♪マークが表示されます。→P.99

ファイル一覧の表示を変更する

サムネイル表示

1.[表示]-[サムネイル表示]を選択します。

・またはサムネイル表示ボタンをクリックします。

●ファイル一覧がサムネイル表示されます。

サムネイルサイズの変更

1.[表示]-[サムネイルサイズの設定]を選択します。

2.リストボックスから、サムネイルのサイズを選択します。

●選択したサイズでファイル一覧が表示されます。

アイコン表示

1.[表示]-[アイコン表示]を選択します。

・またはアイコン表示ボタンをクリックします。

●ファイル一覧がアイコン表示されます。

詳細リスト表示

1. [表示]-[詳細リスト表示]を選択します。
・または詳細リスト表示ボタンをクリックします。

● ファイル一覧が詳細リスト表示されます。

並び順の変更

1. [ソート]メニューの選択肢から、並び順を選択します。
・または並び順指定リストボックスから、並び順を選択します。

● 指定した並び順でファイル一覧が表示されます。

ファイル一覧/フォルダツリーの更新

1. [表示]-[最新の情報に更新]を選択します。
・または、<Ctrl>キーを押したまま <R>キーを押します。

● ファイル一覧およびフォルダツリーの情報が更新されます。

撮影情報を表示する

ファイル一覧に表示されるファイルには、撮影時の条件などの情報が付属されています。
情報の内容は、撮影したカメラによって異なります。

撮影情報の表示

1. ファイル一覧から、撮影情報を表示したいファイルを選択します。

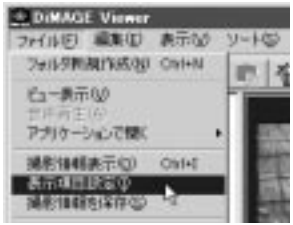
2. [ファイル]-[撮影情報表示]を選択します。

・または撮影情報表示ボタンをクリックします。

- 選択したファイルの撮影情報が表示されます。
- 左図はWindows®版での表示例です。Macintosh版では一部表現が異なります。
- この情報は Exif の規格にもとづいて表示しています。

表示項目の設定

撮影情報に表示される項目を設定します。



1. [ファイル]-[表示項目設定]（Macintoshでは[画像情報表示項目設定...]）を選択します。

クリックすると、すべて「表示する」に移動します。

クリックすると、すべて「表示しない」に移動します。

2. 撮影情報に表示させなくてもよい項目を選択して[←]をクリックすると、選択した項目が「表示しない」のエリアに移動します。

- 「表示する」に戻す場合、項目を選択して[→]をクリックします。
- 上記の操作は、項目をダブルクリックしても同様の結果になります。

3. [OK]をクリックします。

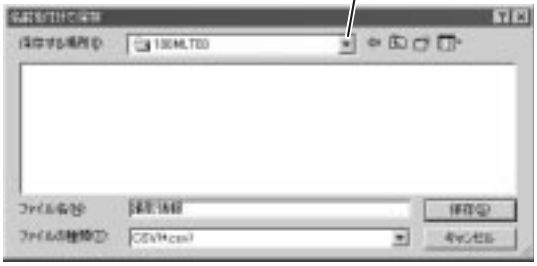
- 設定を変更しない場合は[キャンセル]をクリックします。

撮影情報の保存

1. ファイル一覧から、撮影情報を保存したいファイルを選択します。

2. [ファイル]-[撮影情報を保存]を選択します。

保存する場所を選びます。



3. 撮影情報に名前を付けて[保存]をクリックます。

- 選択したファイルの撮影情報が、CSV形式のファイルとして保存されます。

CSV形式のファイル
項目ごとのデータをカンマ(,)で区切って並べたテキストファイルで、ほとんどのデータベースソフトウェアや表計算ソフトウェアで読み込むことができます。

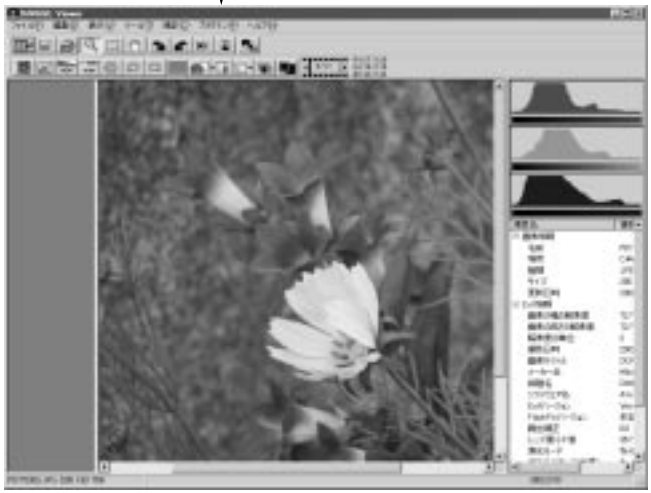
画像ビューを表示する

1. ファイル一覧から、画像ビューを表示したいファイルを選択します。

2. [ファイル]-[ビュー表示]（Macintoshでは[ビューアで表示]）を選択します。

・またはビュー表示ボタンをクリックします。

- 画像をダブルクリックしてもビュー表示に切り替わります。



- 選択した画像がビューウィンドウで表示されます。
- 短辺が3840ピクセル、または長辺が5120ピクセルを越える画像の場合、「画像が大きすぎます」というエラーメッセージが表示され、画像は表示されません。

ビューウィンドウ表示

メニューバー
クリックすると、それぞれのメニューのプルダウンリストを表示します。
操作できるメニューについては、29ページ「ツールとメニュー」をご覧ください。

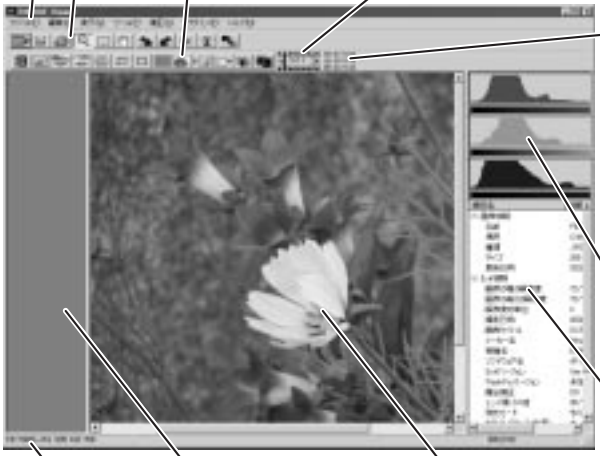
ツールバー
メニューの機能のいくつかをボタンとしてまとめています。

色調補正ツールバー
色調補正に関するメニューの機能をボタンとしてまとめています。

コマ番号表示
サムネイル画像複数存在する場合、画像の総数と現在のコマ番号が表示されます。

現在のコマ番号　コマ総数

前のコマを表示　次のコマを表示



RGB値表示
現在カーソルが指している位置の、RGB値が表示されます。
- WindowsではShiftキー、MacintoshではCommandキーを押すと、RGB（赤緑青）値の代わりにCMY（シアン・マゼンタ・イエロー）値が表示されます。
- 左側は画像補正前の値、右側は画像補正後の値を表します。

ヒストグラム表示
画像ビューに表示している画像のヒストグラム（RGB）を表示します。

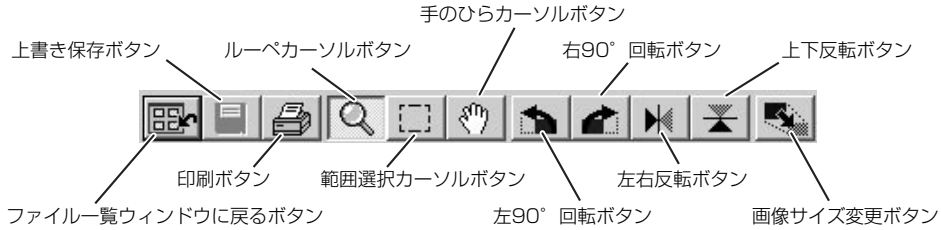
画像情報表示
画像ビューに表示している画像の撮影情報を表示します。

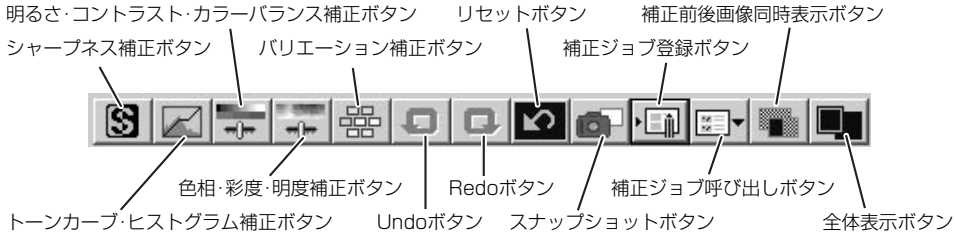
スナップショット表示エリア　画像ビューエリア

ステータスバー
ファイル名やファイルサイズ、表示倍率やカーソルの座標値などを表示します。
ボタンなどの上にカーソルを置いたときに、簡単な機能説明を表示します。

ツールとメニュー

ビューウィンドウでは、次のようなメニューを操作できます。





●ファイル

メニュー／対応ツールボタン	説　明
ファイル一覧ウィンドウに戻る (Macintoshでは、サムネイルウィンドウに戻る)	ビューウィンドウからファイル一覧ウィンドウへ戻ります。
保存	ビューウィンドウに表示している画像を保存します。ただし、MinoIta-RAWおよびJPEGファイルの場合、名前を付けて保存になります。→P.37
名前を付けて保存	ビューウィンドウに表示している画像に名前を付けて保存します。→P.37
選択領域を保存	範囲選択カーソルで選択した範囲の画像を新規ファイルとして保存します。→P.38
印刷	ビューウィンドウに表示している画像をプリントアウトします。→P.42
終了	DiMAGE Viewerを終了します。

●編集

メニュー／対応ツールボタン	説　明
Undo	直前に行った操作を取り消して、その前の状態に戻します。
Redo	[Undo]で取り消した操作をやり直します。
リセット	すべての補正をリセットして、画像を開いた時の状態に戻します。
コピー	範囲選択カーソルで選択した範囲の画像をクリップボードにコピーします。

Macintosh版には、上記メニュー項目に加えて「ペースト」「全てを選択」が表示されます。

●表示

メニュー／対応ツールボタン	説　明
ツールバー/ステータスバー/ ヒストグラム表示/撮影情報表示/ スナップショット表示	ビューウィンドウのレイアウトを切り替えます。チェックマークを付けた項目がウィンドウ上に表示されます。
カーソル	リストボックスからカーソルの種類を選択します。
	ルーペカーソル　：クリックすると、画像を拡大します。<shift>キー（Macintosh版では<option>キー）を押しながらクリックすると、画像を縮小します。→P.34
	手のひらカーソル　：画像をドラッグして、表示位置を移動できます。おもに、画像を拡大表示したときに使います。→P.35
	範囲選択カーソル　：画像上の任意の点からドラッグして、矩形の範囲を選択できます。また選択した範囲は、コピーや保存ができます。→P.38
ズーム	リストボックスから表示倍率を選択します。→P.34 拡　大　：画像を拡大表示します。 縮　小　：画像を縮小表示します。 ウィンドウにあわせる：表示倍率をビューウィンドウの大きさに合わせます。 等倍表示する　：画像を等倍（100%）で表示します。 倍率設定　：25、50、75、100、200、400%から倍率を指定して、画像を拡大縮小します。
補正前後画像同時表示	チェックマークを付けると、補正前と補正後の画像を並べて表示します。→P.65

●ツール

メニュー／対応ツールボタン	説　明
リサイズ	縦横比固定で画像の大きさを変更します。変更したサイズは、画像を保存しないと反映されません。→P.36

回　転		右90°回転 ：画像を右回り（時計回り）に90°回転します。→P.32
		左90°回転 ：画像を左回り(反時計回り)に90°回転します。→P.32
反　転		左右反転　：画像の左右を反転して表示します。→P.33
		上下反転　：画像の上下を反転して表示します。→P.33

●補正

メニュー／対応ツールボタン		説　明
画像補正		リストボックスから各画像補正のメニューを選択すると、それぞれの補正パレットが表示されます。画像補正で行える補正メニューは以下の5種類です。
		トーンカーブ・ヒストグラム補正→P.46
		明るさ・コントラスト・カラーバランス補正→P.57
		色相・彩度・明度補正→P.57／バリエーション補正→P.59
		シャープネス補正→P.66
補正ジョブ登録（Macintoshでは、画像補正ジョブ登録）		補正ジョブ登録ウィンドウを表示します。表示している画像に行った画像補正・シャープネス補正を、補正ジョブとして登録できます。→P.64
補正ジョブ呼び出し		登録した補正ジョブを施したサムネイル画像と、現在の画像を対比して表示します。→P.64
スナップショット		現在の画像をスナップショットとして記録し、スナップショット表示エリアにサムネイル表示します。→P.63

●プラグイン

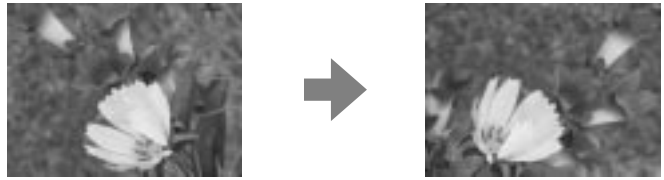
規定のフォルダ内にある専用画像補正系プラグインを、起動時にサーチし、ここに登録します。

画像を回転・反転する

右回転

1. [ツール]-[回転]-[右90° 回転]を選択します。

・または右回転ボタンをクリックします。

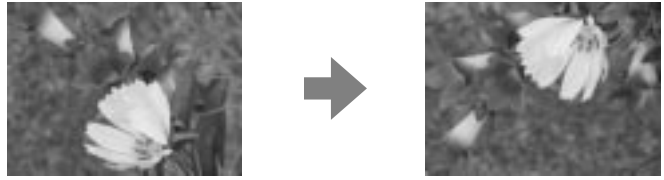


●画像が時計回りに90° 回転します。

左回転

1. [ツール]-[回転]-[左90° 回転]を選択します。

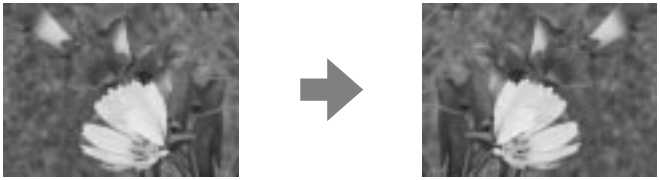
・または左回転ボタンをクリックします。



●画像が反時計回りに90° 回転します。

左右反転

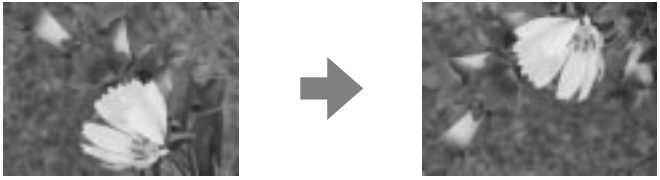
1. [ツール]-[反転]-[左右反転]を選択します。
・または左右反転ボタンをクリックします。



●画像が左右反転されます。

上下反転

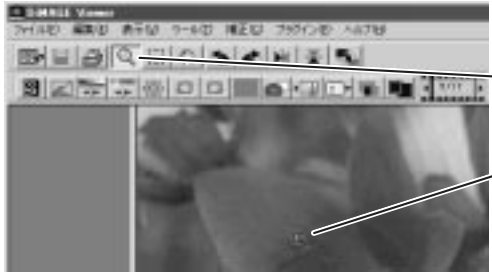
1. [ツール]-[反転]-[上下反転]を選択します。
・または上下反転ボタンをクリックします。



●画像が上下反転されます。

画像を拡大・縮小する

ルーペカーソルで拡大・縮小する

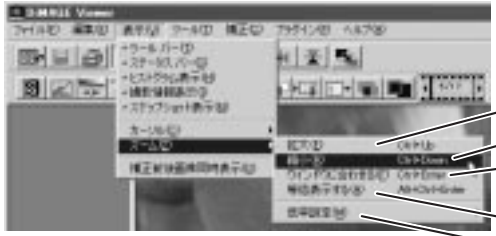


1. [表示]-[カーソル]-[ルーペカーソル]を選択します。
・またはルーペカーソルボタンをクリックします。

2. 拡大の場合：画像上をクリックします。
縮小の場合：<shift>キー（Macintosh版では<option>キー）を押しながら、画像上をクリックします。

●拡大・縮小の倍率は、[倍率設定]で変更できる倍率ごとに上下します。

ズームメニューで拡大・縮小する



1. [表示]-[ズーム]を選択します。
リストボックスが表示されます。

●現在の倍率より、１つ上の倍率に拡大します。
●現在の倍率より、１つ下の倍率に縮小します。
●表示倍率をビューウィンドウの大きさに合わせます。
●等倍（100%）で表示します。
●倍率を指定して、画像を拡大縮小します。

2. リストボックスからメニューを選択して、画像の表示倍率を変更します。

表示位置を変更する

画像を拡大したとき、ビューウィンドウ内で画像のすべてを表示しきれない場合があります。
手のひらカーソルを使うと、倍率はそのままで、表示する位置を変更できます。

1. [表示]-[カーソル]-[手のひらカーソル]を選択します。
・または手のひらカーソルボタンをクリックします。

2. 手のひらカーソルで画像をドラッグします。

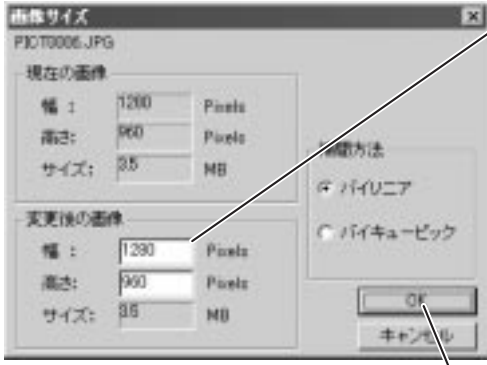
3. 見たい位置が表示されたら、マウスボタンを離します。

画像サイズを変更する

画像サイズを縦横比固定で変更できます。

1. [ツール]-[リサイズ]を選択します。

・または画像サイズ変更ボタンをクリックします。



2. サイズ変更後の画像の幅または高さを、画素数（ピクセル）単位で入力します。

- 一方を入力すると、もう一方も自動的に変わります。縦横の縮小比率を変えることはできません。
- 必要に応じて、画像の補間方法も選択します。

  バイリニア　　：標準的な画質が得られます。

  バイキュービック：最も精度の高い画像補間方式です。この方法を選択すると、色調の移行が最も滑らかになりますが、保存のときの処理速度は遅くなります。
- 設定できる最大サイズは、短辺が3840ピクセル、長辺が5120ピクセルとなります。

3. [OK]をクリックします。

- 実際の画像サイズの変更は、画像を保存するときに行われます。

画像ファイルを保存する

名前を付けて保存する

ビューウィンドウに表示されている画像に名前を付けて保存します。

上書き保存するときは、上書き保存ボタンをクリックします。

1.[ファイル]-[名前を付けて保存]を選択します。

2.保存する場所を選び、ファイル名を入力します。

3.保存するファイル形式を選択します。

4.[保存]をクリックして保存します。

選択範囲を保存する

画像の任意の範囲を指定して、その部分だけを新規ファイルとして保存できます。

1. [表示]-[カーソル]-[選択範囲カーソル]（Macintoshでは[範囲選択カーソル]）を選択します。

・または選択範囲カーソルボタンをクリックします。

2. 選択範囲の角にあたる部分からドラッグします。

● ドラッグに合わせて、点線の矩形が現れます。

3. 保存したい範囲を点線の矩形で囲めたら、マウスボタンを離します。

● 選択範囲（点線の矩形の位置）や大きさは画像内で変更できます。

4. [ファイル]-[選択領域を保存]を選択します。

5. 選択した範囲を新規ファイルとして保存します。

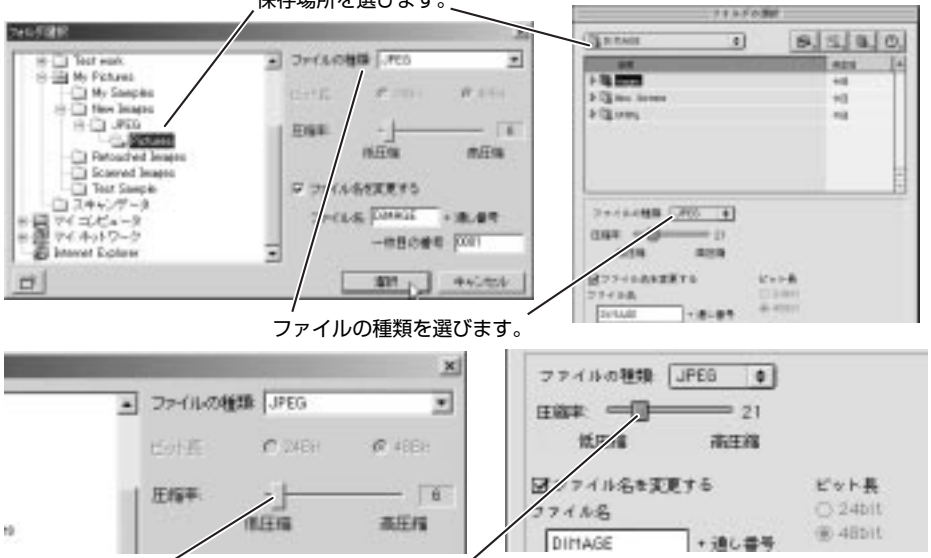
● 保存の手順は、37ページの手順2～4をご覧ください。

● 保存後も選択範囲（点線の矩形）は保持されています。ファイル一覧ウィンドウに戻り[表示]-[最新の情報に更新]を選ぶ、等で画像を再読み込みすると、選択範囲（点線の矩形）は解除されます。

ファイルを一括保存する

69ページで説明しているバッチ処理を複数のファイルに対して実行すると、ファイルを一括保存するダイアログボックスを表示します。バッチ処理を実行したファイルの名前をまとめて変更できます。ファイル名は、「共通のファイル名＋通し番号」となります。また、ファイルの種類や圧縮率等も同じになります。（1ファイルごとの設定はできません）

1.保存場所とファイルの種類等を指定します。

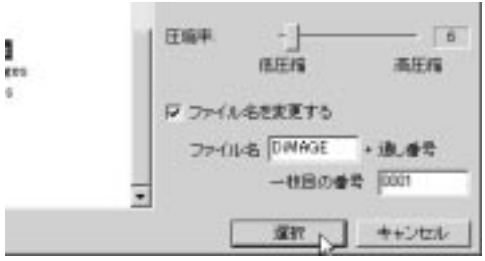


JPEGを選んだ場合、圧縮率のスライドバー1（低圧縮・ファイルサイズ大）～100（高圧縮・ファイルサイズ小）を選択します。

●バッチ処理を実行したファイルが、ここで選んだ設定によって保存されます。

2. ファイル名を指定します。

- ファイル名を変更する場合は、「ファイル名を変更する」にチェックを入れ、ファイル名を指定します（以下参照）。拡張子は自動的に付加されます。
- ファイル名を変更しない場合はチェックを入れないでください。（拡張子は自動的に付加されるので、拡張子のみ変更されることはあります。）
- 拡張子を除いたファイル名が同じファイルを複数選択し、かつファイル名を変更せずに保存しようとすると、「同じ名前を持つファイルが複数選択されています。」というメッセージが現れます。この場合はファイル名を変更しないと保存できません。



ファイル名は、ファイル名先頭部分（半角10文字以内）＋ 通し番号（5桁以内）、で表されます。

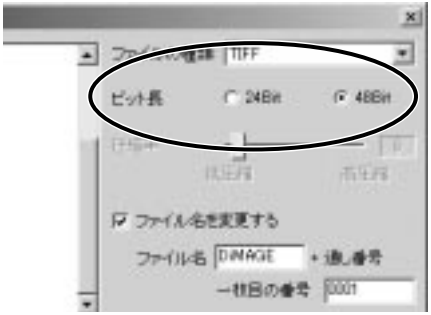
例
5個のJPEGファイルを上記の設定で一括保存すると、ファイル名は、DiMAGE0001.JPG、DiMAGE0002.JPG、～　DiMAGE0005.JPG、となります。

3. [選択]をクリックして保存します。

RAWファイルの保存について

RAW（ロー）形式で撮影できるカメラの場合、RAWで撮影した画像をTIFF形式で保存する際には、24ビット（RGB各色8ビット）または48ビット（RGB各色16ビット）のいずれかを選択することができます。

- いったん24ビットで保存した画像は、48ビットで保存し直すことはできません。
- アプリケーションソフトによっては48ビット画像に対応していない（開けることができない）ものもあります。

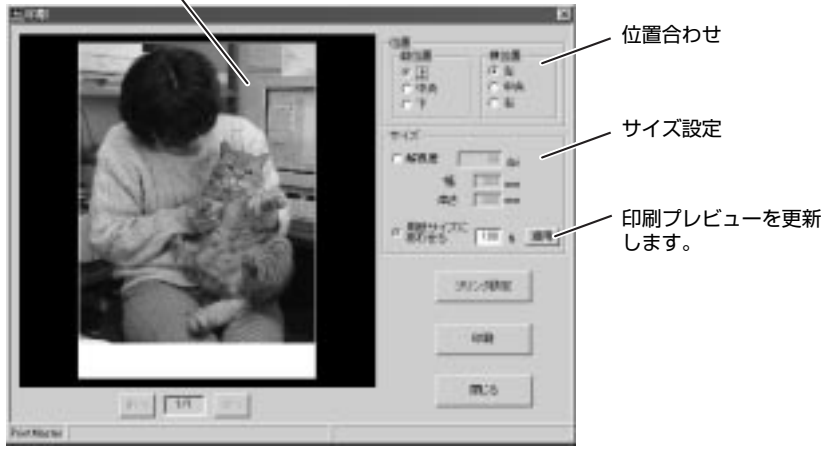


画像をプリントアウトする

ビューウィンドウに表示している画像をプリントアウトできます。

1. プリントアウトする画像をファイル一覧から選択し、ビューウィンドウに表示させます。

2. [ファイル]-[印刷]を選択します。
・または印刷ボタンをクリックします。



3.用紙上の位置合わせをします。

●「縦位置」のいずれかのラジオボタンをオンにして、縦方向の画像の位置を決めます。
　上　：画像を用紙の上端（余白除く）に合わせます。
　中央：画像を用紙の中央にあわせます。
　下　：画像を用紙の下端（余白除く）に合わせます。

●「横位置」のいずれかのラジオボタンをオンにして、横方向の画像の位置を決めます。
　左　：画像を用紙の左端（余白除く）に合わせます。
　中央：画像を用紙の中央にあわせます。
　右　：画像を用紙の右端（余白除く）に合わせます。

4.用紙上の画像のサイズを決めます。

●「解像度」「用紙サイズに合わせる」いずれかのラジオボタンをオンにして、印刷画像のサイズを設定します。

●「解像度」のラジオボタンをオンにして、「解像度」にdpi単位で出力解像度を入力します。入力すると、幅と高さの数値も解像度に合わせて変わります。
　あるいは、「幅」または「高さ」にmm単位でプリントサイズを入力します。一方を入力すると、もう一方も自動的に変わります。

●「用紙サイズに合わせる」のラジオボタンをオンにして、用紙に対する倍率（%）を入力します。設定できる範囲は1～100の整数です。

5.[適用]をクリックします。

印刷プレビューの内容が設定したサイズに更新されます。

お使いのプリンタの詳細な設定が表示されます。
「プロパティ」の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

6. [プリンタ設定]をクリックします。

- プリンタの設定を確認し、必要があれば変更します。
- 用紙のサイズを確認します。
- 用紙の向きを確認します。

7. [OK]をクリックして、プリンタの設定を閉じます。

9. [印刷]をクリックします。

- 印刷ダイアログボックスが表示されます。

10. 「印刷範囲」と「印刷部数」の設定を確認し、必要があれば変更します。

11. [OK]（Macintoshでは[プリント]）をクリックします。

- 印刷が開始されます。

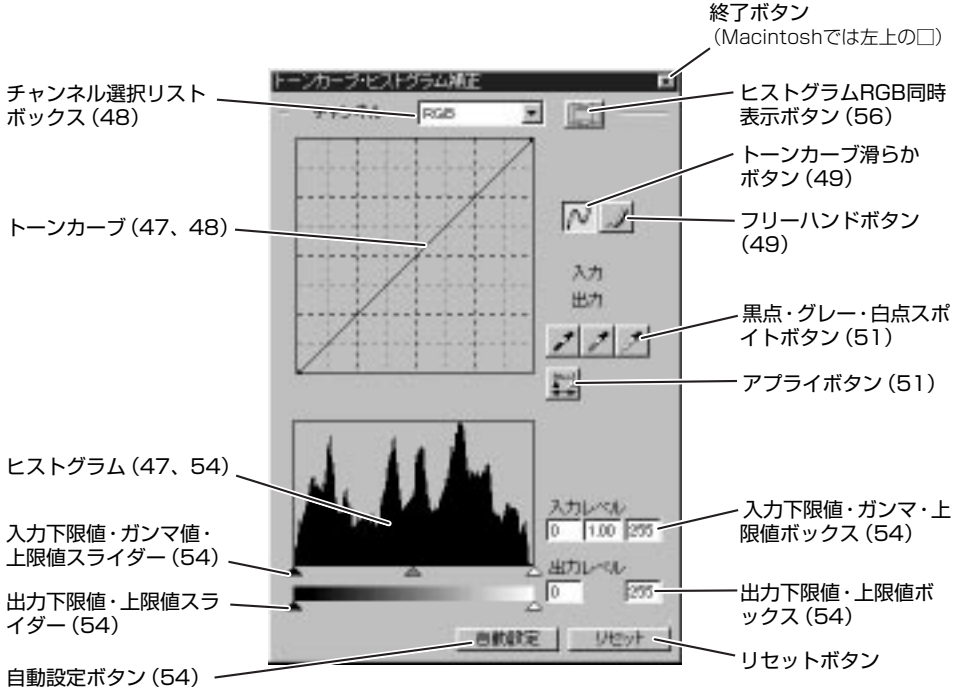
ここは空白ページです。

トーンカーブ／ヒストグラム補正

1. [補正]-[画像補正]-[トーンカーブ・ヒストグラム補正]を選択します。

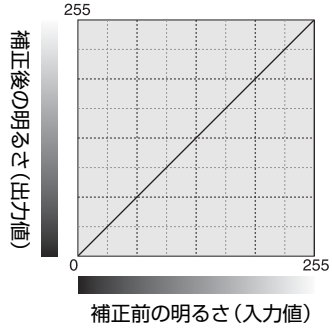
・またはトーンカーブ・ヒストグラム補正ボタンをクリックします。

以下のトーンカーブ・ヒストグラム補正パレットが表示されます。



※ (　) 内の数字は参照ページです。

トーンカーブの見方



トーンカーブとは、補正前の明るさの値を横軸に、補正後の明るさの値を縦軸に表したものです。値は0～255の256階調で表されます。

補正前は両者の明るさは同じ（グラフは右上から左下への直線となる）ですが、これに手を加えることにより、明るさ、コントラスト、色を調整することができます。※補正例について→P.50

- 画面（補正画像表示エリア）上にカーソルを合わせると、その位置がトーンカーブのどの位置にあたるかが○で表示されます。

ヒストグラムの見方

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。明るさの値が横軸に、画素数が縦軸に表されます。明るさはトーンカーブと同じく0～255の256階調で表されます。

RGBについて

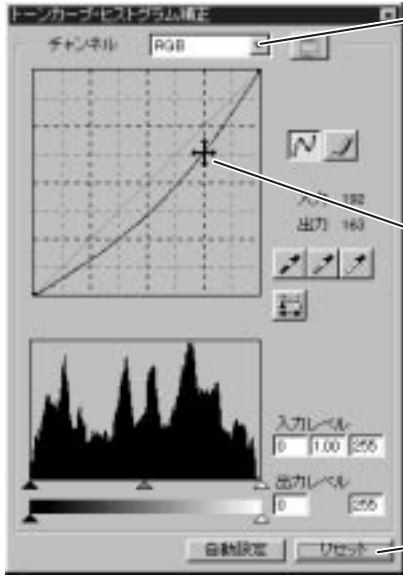
デジタル画像において色を表す最も一般的な用語です。R（Red = 赤）、G（Green = 緑）、B（Blue = 青）を表し、いずれも0～255の256階調で表されます。数値が大きくなればその色味が強くなり、すべて0だと真っ黒、すべて255だと真っ白になります。以下は色の例です。

R=0, G=0, B=0	黒	R=255, G=255, B=0	黄色
R=255, G=0, B=0	赤	R=255, G=0, B=255	マゼンタ
R=0, G=255, B=0	緑	R=0, G=255, B=255	シアン
R=0, G=0, B=255	青	R=255, G=255, B=255	白

トーンカーブ補正

トーンカーブ補正

マウスで直接トーンカーブに手を加えることにより画像を補正します。



1.チャンネル選択リストボックスから、補正するトーンカーブのチャンネルを選びます。

- 補正するチャンネルは以下から選択できます。
  RGB：R（赤）、G（緑）、B（青）の全色
  R：R（赤）
  G：G（緑）
  B：B（青）

2.マウスカーソルをトーンカーブの上に持って行き、変更したいところでクリックします。

- 補正前の入力値と補正後の出力値が、トーンカーブ右側に表示されます。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。

リセットボタンをクリックすると、このウィンドウでの補正はすべてキャンセルされます。

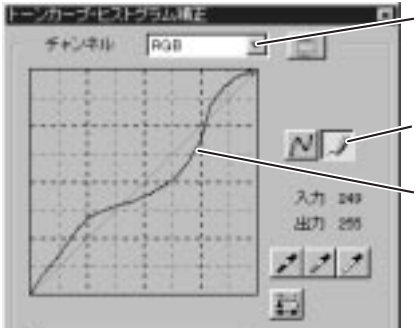
キー操作でも各チャンネルの選択ができます。

Windowsの場合：		Macintoshの場合：	
Ctrl ＋ 0 →	RGB	Command ＋ 0 →	RGB
Ctrl ＋ 1 →	R	Command ＋ 1 →	R
Ctrl ＋ 2 →	G	Command ＋ 2 →	G
Ctrl ＋ 3 →	B	Command ＋ 3 →	B

※上記の「＋」は、「＋」の左側のキーを押したまま「＋」の右側のキーを押す操作を表わします。例えば、Ctrl ＋ 3 は、Ctrl キーを押したまま 数字の３キーを押す操作のことです。

フリーハンドによるトーンカーブ補正

トーンカーブを自由に描くことができます。

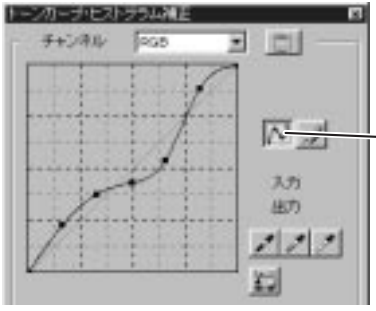


1.チャンネル選択リストボックスから、補正するトーンカーブのチャンネルを選びます。

2.フリーハンドボタンをクリックします。

3.マウスをドラッグしてトーンカーブを描きます。

- マウスを移動させると、その場所の入力値と出力値がトーンカーブ右側に表示されます。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。



描いたカーブを滑らかにする場合は、トーンカーブ滑らかボタンをクリックします。

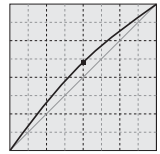
リセットボタンでキャンセルできます。

トーンカーブによる補正の例

トーンカーブで補正を行なうと、明るさ、コントラスト、色の調整が可能です。P.57の調整方法とは異なり、白飛びや黒つぶれのしやすいハイライト部とシャドー部には補正量を少なく、中間部には多めに補正をかけることができます。

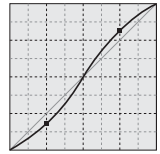
明るくする／暗くする

RGBチャンネルを選んでカーブ全体を押し上げると、暗いところから明るいところまで全体に明るさが増して、画像が明るくなります。逆にカーブ全体を押し下げると暗くなります。



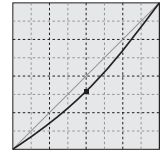
コントラストを上げる／下げる

RGBチャンネルを選んで、明るい部分が少し明るめに、暗い部分が少し暗めになるようにS字型にすると、全体のコントラストが上がります。逆S字型にするとコントラストが下がります。



色を修正する

夕焼けの赤さを強調したい等、特定の色を強調したいときは、その色のチャンネルを選んでカーブを押し上げるとその色味が強くなります。逆にカーブを押し下げるとその色味が弱くなります。



白点／黒点／グレースポイトによる補正

画像の中で、白くしたい部分や黒くしたい部分を指定して、明るさの補正をすることができます（白点／黒点スポイト）。また無彩色（灰色）の部分を指定して、色の補正をすることもできます（グレースポイト）。

白点スポイトによる補正

白くしたい部分を指定して、明るさの補正を行ないます。

1. 白点スポイトボタンをダブルクリックします。

2. 白点スポイト値に補正後の数値を入力し、[OK]をクリックします。

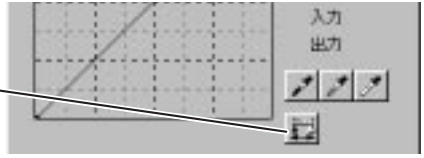
- 初期値はすべて255（真っ白）になっています。

3. 白点スポイトボタンをクリックします。

- マウスカーソルが白色のスポイトになります。

4. 画像上で、白くしたい部分をクリックします。

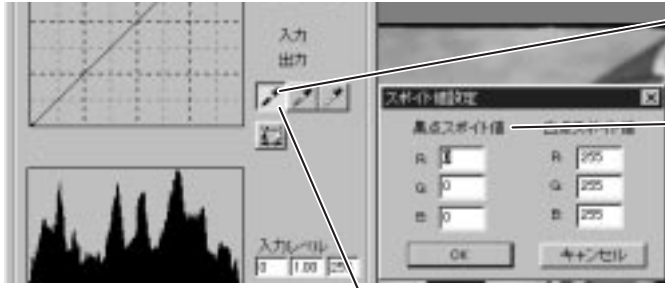
- クリックした部分が、2で設定した補正後の数値になります。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。



アプライボタンをクリックしたままにすると、補正後のヒストグラムが表示されます。

黒点スポイトによる補正

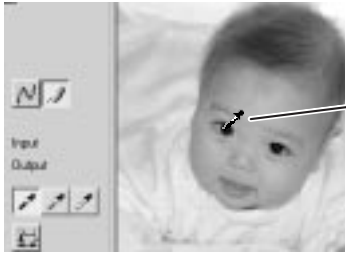
黒くしたい部分を指定して、明るさの補正を行ないます。



1.黒点スポイトボタンをダブルクリックします。

2.黒点スポイト値に補正後の数値を入力し、[OK]をクリックします。

- 初期値はすべて0（真っ黒）になっています。



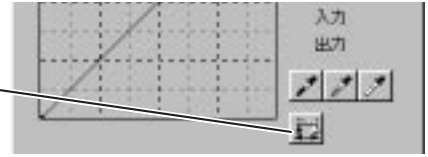
3.黒点スポイトボタンをクリックします。

- マウスカーソルが黒色のスポイトになります。

4.画像上で、黒くしたい部分をクリックします。

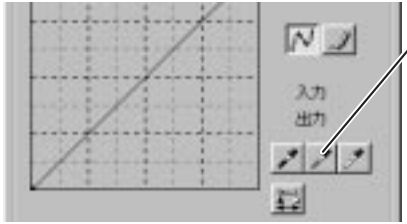
- クリックした部分が、2で設定した補正後の数値になります。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。

アプライボタンをクリックしたままにすると、補正後のヒストグラムが表示されます。



グレースポイトによる補正

無彩色の部分（赤緑青等の色が混じっていない純粋に灰色の部分）を指定して、色の補正を行ないます。

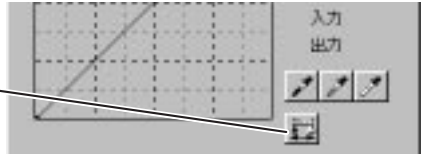


1. グレースポイトボタンをクリックします。

2. 画像上で、無彩色にしたい部分をクリックします。

- クリックした部分が、輝度はそのままで、カラーバランスのそろった無彩色（灰色）になるように画像を補整します。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。

アプライボタンをクリックしたままにすると、補正後のヒストグラムが表示されます。



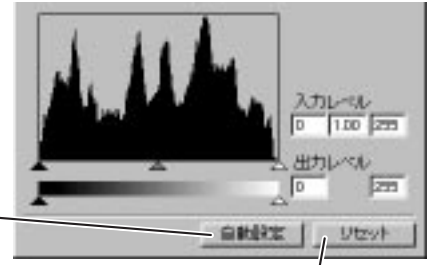
ヒストグラム補正

自動設定

ヒストグラムの自動設定を行なうと、RGBすべてのトーンカーブ／ヒストグラム補正をリセットした上で、画像の中の最も暗い部分が黒（0）に、最も明るい部分が白（255）に、中間の明るさの部分が中央に来るように自動的に補正されます。

自動設定ボタンを押します。

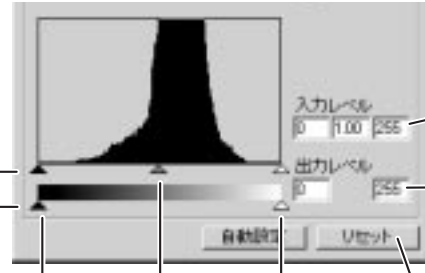
● 補正の結果はすぐに画像に反映されます。



リセットボタンをクリックすると、このウィンドウでの補正はすべてキャンセルされます。

手動設定

入力／出力範囲設定スライダーを調整することにより画像を補整します。



入力下限値・ガンマ値・上限値スライダー

出力下限値・上限値スライダー

入力下限値・ガンマ・上限値ボックス

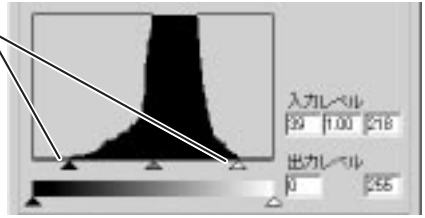
出力下限値・上限値ボックス

下限値　ガンマ値　上限値

リセットボタンでキャンセルできます。

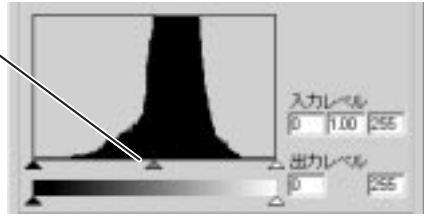
入力下限値スライダー▲と上限値スライダー△を内側にスライドさせると、コントラストが強くなります。

- 入力下限値▲よりも左は黒（0）になります。ヒストグラムの左端に画素が存在しない場合、画素の左端まで▲を移動させるとその位置の明るさが黒（0）になり、暗い側のコントラストが増します。上限値△についても同様です。
- 下限値▲と上限値△の数値が右側に表示されます。数値を直接入力することもできます。



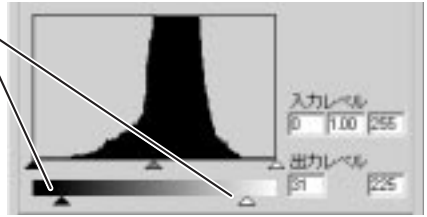
入力ガンマ値スライダーをスライドさせると、中間調の明るさの調整ができます。

- 右側に動かすと中間調が暗くなり、左側に動かすと明るくなります。
- ガンマ値は中央に表示されます。初期値は1.00です。数値を直接入力することもできます。
- P.57の明るさ調整方法と異なり、ハイライト部とシャドー部には少なめに、中間調には多めに補正をかけることができます。



出力下限値スライダー▲と上限値スライダー△を内側にスライドさせると、コントラストが弱くなります。

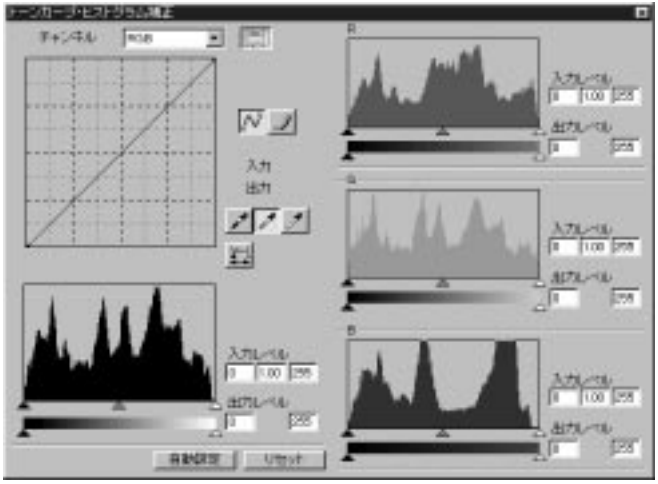
- 入力下限値▲の位置の画素が出力下限値▲に補正されます。（出力下限値▲よりも左の明るさの画素が存在しなくなります。）出力上限値△についても同様です。
- 出力下限値▲と上限値△の数値が右側に表示されます。数値を直接入力することもできます。



ヒストグラムによる色補正

RGBそれぞれのチャンネルに対して、ヒストグラム補正を行なうことができます。

1.ヒストグラムRGB同時表示ボタンをクリックします。



2.RGB別のヒストグラムが表示されるので、前ページの要領で補正を行ないます。

- もう一度ヒストグラムRGB同時表示ボタンをクリックすると、RGB別のヒストグラムの表示は消えます。

明るさ／コントラスト／カラーバランス補正

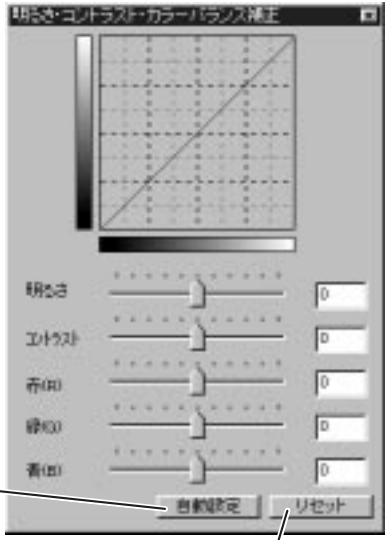
明るさ、コントラスト（明暗差）、カラーバランスの各補正を行なうことができます。

1.[補正]-[画像補正]-[明るさ・コントラスト・カラーバランス補正]を選択します。

・または明るさ・コントラスト・カラーバランス補正ボタンをクリックします。

2.明るさ、コントラスト、カラーバランス（赤、緑、青）の各スライダーをドラッグするか、テキストボックスに−100〜100までの数値を直接入力して補正を行ないます。

- スライダーを右側に、数値を＋側に大きくするとそれぞれの効果が大きくなります。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。



自動設定ボタンをクリックすると、カラーバランスはそのままの状態で、明るさとコントラストを自動で補正します。

リセットボタンをクリックすると、明るさ、コントラスト、カラーバランス補正はすべてキャンセルされます。

色相／彩度／明度補正

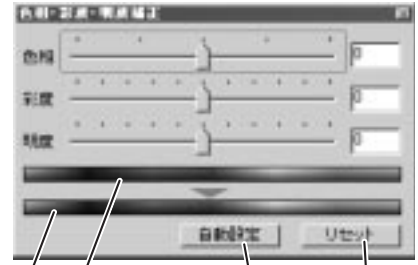
色相、彩度（鮮やかさ）、明度の各補正を行なうことができます。

1.[補正]-[画像補正]-[色相・彩度・明度補正]を選択します。

・または色相・彩度・明度補正ボタンをクリックします。

2.色相、彩度、明度の各スライダーをドラッグするか、テキストボックスに数値を直接入力して補正を行ないます。

- 色相は－180～＋180まで設定できます。最大の180または－180にすると、反対の色相になります。
- 彩度と明度は－100～＋100まで設定できます。、スライダーを右側に、数値を＋側に大きくするとそれぞれの度数は上がります。
- 補正の結果はすぐに画像に反映されます。



上側の調整色見本には補正前の、下側には補正後の色の状態が表示されます。色相、彩度、明度の各値を変更すると、それぞれの色がどのように変わるかを確認することができます。

調整色見本（補正前）

調整色見本（補正後）

自動設定ボタンをクリックすると、色相と明度はそのままの状態で、画像の目立ちやすい部分に注目した彩度補正を自動で行ないます。

リセットボタンをクリックすると、色相、彩度、明度補正はすべてキャンセルされます。

バリエーション補正

バリエーション補正では、現在の画像と補正後の画像を確認しながら、カラーバランス、明るさ・コントラスト、および彩度の補正を行なうことができます。

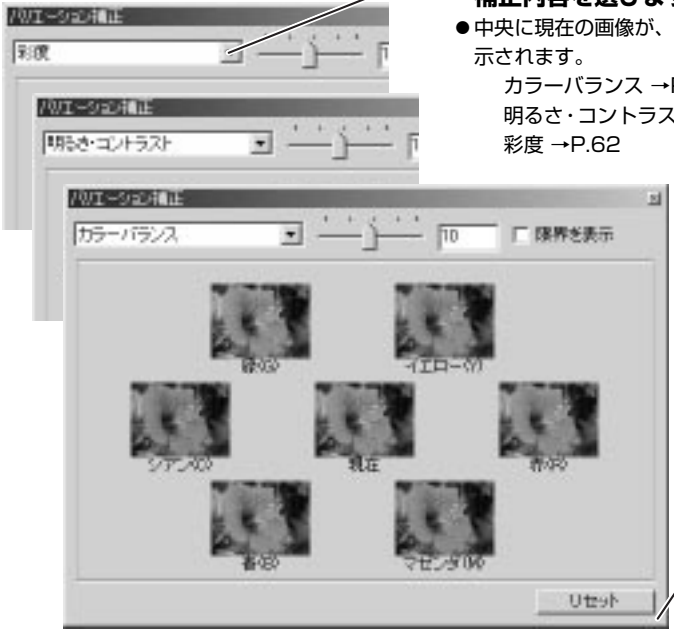
1. [補正]-[画像補正]-[バリエーション補正]を選択します。

・またはバリエーション補正ボタンをクリックします。

2. 補正種類選択リストボックスから、希望の補正内容を選びます。

● 中央に現在の画像が、その周囲に補正後の画像が表示されます。

カラーバランス →P.60
明るさ・コントラスト →P.61
彩度 →P.62

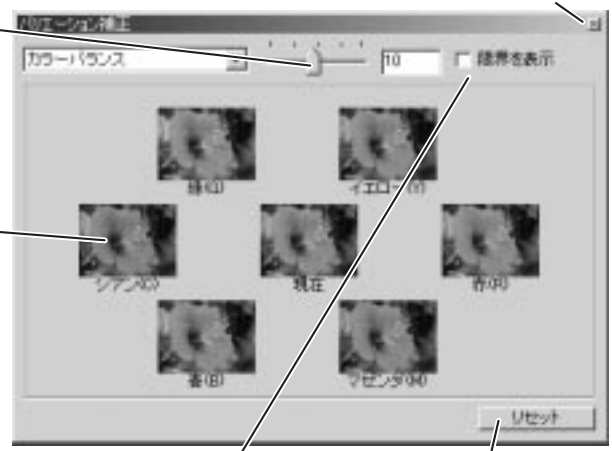


ウィンドウの大きさを調整することができます。

カラーバランスバリエーション補正

カラーバランスバリエーション補正では、中央の現在の画像を基準として、赤（R）、マゼンタ（M）、青（B）、シアン（C）、緑（G）、イエロー（Y）各方向にそれぞれ補正された6つの画像が表示されます。

終了ボタン
（Macintoshでは左上の□）



1. 変化量設定スライダーで、補正される度合いを調整します。

- 数値は右側に表示されます。1～20の範囲で調整できます。数値を直接入力することもできます。

2. 希望の画像をクリックして選びます。

- 選んだ画像が中央に配置され、それを基準に新しい補正画像が表示されます。続けて補正することができます。
- 補正の結果は補正画像表示エリアの画像にもすぐに反映されます。

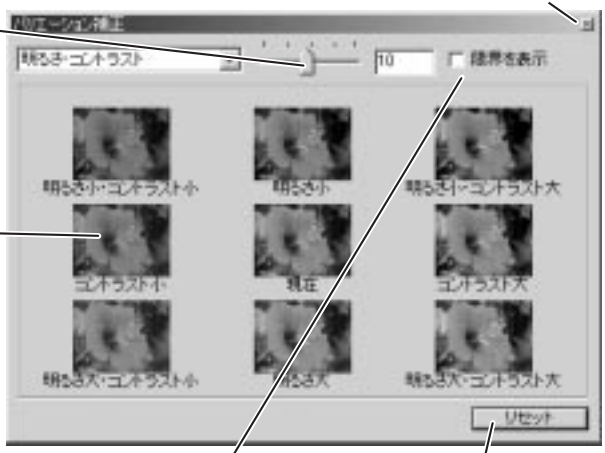
「限界を表示」にチェックを入れておくと、補正後に表示の限界値（0または255を超えてしまう部分）があれば、その部分が反転表示されます。（例として青が限界値を超える場合は、その補色のイエローで表示されます。）

リセットボタンをクリックすると、カラーバランスバリエーション補正はすべてキャンセルされます。

明るさ・コントラストバリエーション補正

明るさ・コントラストバリエーション補正では、中央の現在の画像を基準として、垂直方向に明るさ、水平方向にコントラストが補正された8つの画像が表示されます。

終了ボタン
（Macintoshでは左上の□）



1. 変化量設定スライダーで、補正される度合いを調整します。

- 数値は右側に表示されます。1～20の範囲で調整できます。数値を直接入力することもできます。

2. 希望の画像をクリックして選びます。

- 選んだ画像が中央に配置され、それを基準に新しい補正画像が表示されます。続けて補正することができます。
- 補正の結果は補正画像表示エリアの画像にもすぐに反映されます。

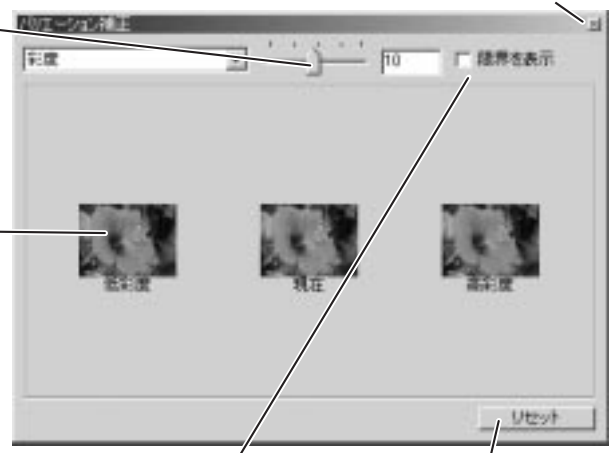
「限界を表示」にチェックを入れておくと、補正後に表示の限界値（0または255を超えてしまう部分）があれば、その部分が反転表示されます。

リセットボタンをクリックすると、明るさ・コントラストバリエーション補正はすべてキャンセルされます。

彩度バリエーション補正

彩度バリエーション補正では、中央の現在の画像を基準として、彩度（色の鮮やかさ）が補正された2つの画像が表示されます。

終了ボタン
（Macintoshでは左上の□）



1.変化量設定スライダーで、補正される度合いを調整します。

- 数値は右側に表示されます。1～20の範囲で調整できます。数値を直接入力することもできます。

2.希望の画像をクリックして選びます。

- 選んだ画像が中央に配置され、それを基準に新しい補正画像が表示されます。続けて補正することができます。
- 補正の結果は補正画像表示エリアの画像にもすぐに反映されます。

「限界を表示」にチェックを入れておくと、補正後に表示の限界値（0または255を超えてしまう部分）があれば、その部分が反転表示されます。

リセットボタンをクリックすると、彩度補正はすべてキャンセルされます。

スナップショット（画像の一時保存）

現在補正画像表示エリアに表示されている画像を、左側のスナップショット表示エリアに一時的に保管します。補正の区切りごとにスナップショットを撮っておけば、いつでもその状態に戻ることができます。

1. 一時保存したい画像をビューウィンドウに表示します。

2. [補正]-[スナップショット]を選択します。

- **またはスナップショットボタンをクリックします。**

●左側のスナップショット表示エリアにサムネイルが追加されます。

スナップショットをクリックすると、その画像が右側に大きく表示されます。

●メモリの許す限りスナップショットの追加は可能です。
●スナップショットを消去するときは、画像をクリックしてキーボードの<Delete>キーを押してください。
●ファイル一覧ウィンドウに戻ったり、ソフトウェアを終了させると、スナップショットはすべて消去されます。

画像補正ジョブ

画像補正タブにおいて行なった補正を、画像補正ジョブとして登録できます。補正のパターンがある程度決まっている場合には、その一連の内容を登録しておけば、そのジョブを呼び出すだけで新たな画像に同じ補正を行なうことができます。

補正ジョブの登録

1.登録したい補正を行います。

2.[補正]-[補正ジョブ登録]（Macintoshでは[画像補正ジョブ登録]）を選択します。

・または補正ジョブ登録ボタンをクリックします。

3.登録したいジョブ名を入力し、[OK]をクリックします。

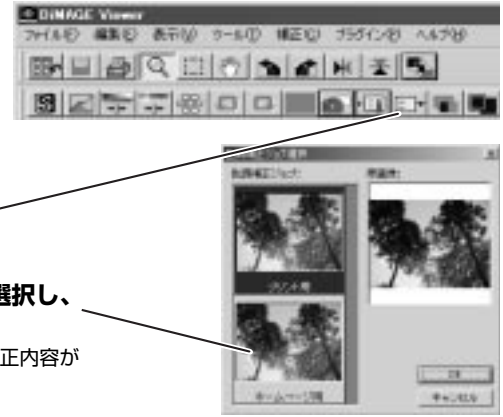
●現在の補正内容が登録されます。

補正ジョブの呼び出し

1.補正をかけたい画像を表示させます。

2.[補正]-[補正ジョブ呼び出し]を選択します。

・または補正ジョブ呼び出しボタンをクリックします。



3.適用したい補正ジョブをクリックして選択し、[OK]をクリックします。

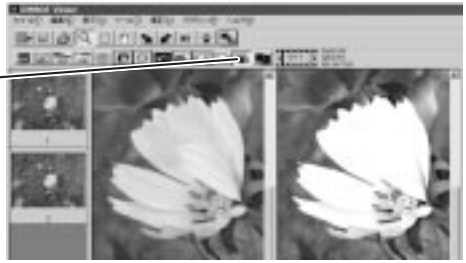
●現在表示されている画像に、登録されている補正内容が適用されます。

補正前後の画像の比較をする・全体を表示する

補正前後の画像を横に並べて比較することができます。またウィンドウの大きさに合わせて画像全体を表示させることもできます。この2つの機能は組み合わせて使うと便利です。

1. [表示]-[補正前後画像同時表示]を選択します。

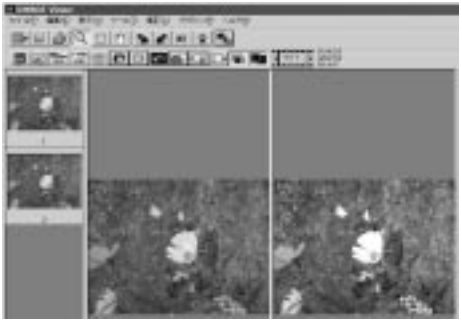
・ または補正前後画像同時表示ボタンをクリックします。



- 左側に補正前の、右側に補正後の画像が表示されます。
- もう一度クリックすると元に戻ります。

全体表示ボタンをクリックすると、画像全体が見れるよう、画像の大きさが自動で調整されます（右図）。

- もう一度クリックすると元に戻ります。
- 画面右下をドラッグすると、ウィンドウのサイズを変更することができます。



シャープネス

画像のシャープネス（鮮鋭度）を強調することができます。

1.[補正]-[画像補正]-[シャープネス補正]を選択します。

・またはシャープネスボタンをクリックします。

●以下のシャープネスパレットが表示されます。

強調する周波数を選びます（次ページ参照）。

強調する度合いを選びます。値は0.0～2.0の間で設定できます。数値を直接入力することもできます。

プレビューにチェックを入れておくと、補正の結果がビュー画面に反映されます。ただし、動作が遅くなりますので、チェックを外しておくことをお勧めします。

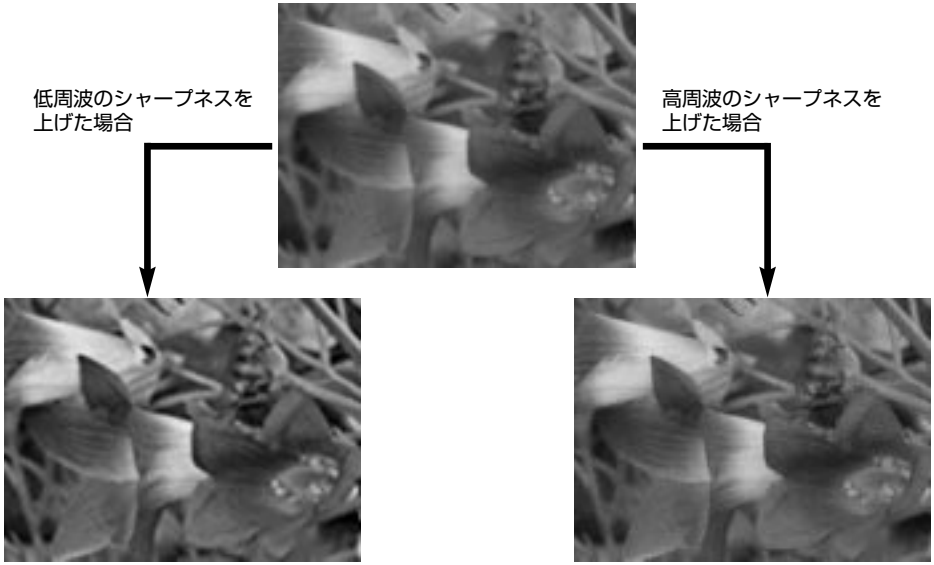
ビュー画面上でマウスをドラッグすると、画像の表示場所が変わります。

＋／－ボタンでビュー画面の表示倍率が変更できます。200%、100%、50%、25%のいずれかに設定できます。

リセットボタンをクリックすると、シャープネス補正はすべてキャンセルされます。

周波数とシャープネスの関係

周波数とは、本来の意味では一定の幅内に含まれる波の数のことですが、ここでは画像中の一定範囲における輝度変化の細かさを意味します。一定の範囲内での輝度変化が細かい部分は高周波、粗い部分は低周波と言えます。
一般的に低周波のシャープネスを上げると、大きなコントラストが強調され、画像全体のコントラストが上がります。一方高周波のシャープネスを上げると、細かいコントラストが強調され、細部がくっきりと再現されるようになります。



バッチ処理

バッチ処理は、複数の画像に対して同じ補正や回転・反転、リサイズなどを実行し、新規ファイルとして保存したい場合などに使用します。

1. ファイル一覧から、バッチ処理を実行したい画像を選択します。

2. [ツール]-[バッチ処理]を選択します。

- バッチ処理ダイアログボックスが表示されます。

バッチ処理の項目について

Minolta-RAW処理	選択された画像の中にRAWファイルがあるとき、設定可能になります。 「撮影時の設定使用」か「ジョブ使用」を選択できます。 ●「撮影時の設定使用」：撮影時のパラメータを使用してMinolta-RAWファイルの画像処理を実行します。 ●「ジョブ使用」：RAWファイルオープンウィンドウで保存した設定ジョブを使用して、画像補正を実行できます。
回転（時計回り）	画像を時計回りに回転します。回転角度は90°、180°、270° から選択できます。
上下反転	画像を上下反転します。
左右反転	画像を左右反転します。
画像補正	補正ジョブを使用して、画像補正を実行できます。
リサイズ	倍率（%）を入力し、画像のサイズを変更できます。設定できる範囲は10～200%です。ただし、リサイズの結果、短辺が3840ピクセル、または長辺が5120ピクセルを超えてしまう画像がある場合、バッチ処理は実行されません。

バッチ処理の実行

1.バッチ処理を実行したい項目にチェックマークを付けます。

- Minolta-RAW処理のジョブ名の選択については、74ページを参照してください。
- 画像補正のジョブ名の選択については、64ページを参照してください。

2.[OK]をクリックします。

3.バッチ処理を実行したファイルに名前を付けて保存します。

- 複数のファイルにバッチ処理を実行した場合、一括保存のダイアログボックスが表示されます。一括保存については、39ページ「ファイルを一括保存する」を参照してください。
- １つのファイルにバッチ処理を実行した場合、名前を付けて保存のダイアログボックスが表示されます。名前を付けて保存については、37ページ「名前を付けて保存する」を参照してください。

RAWファイルの色調補正

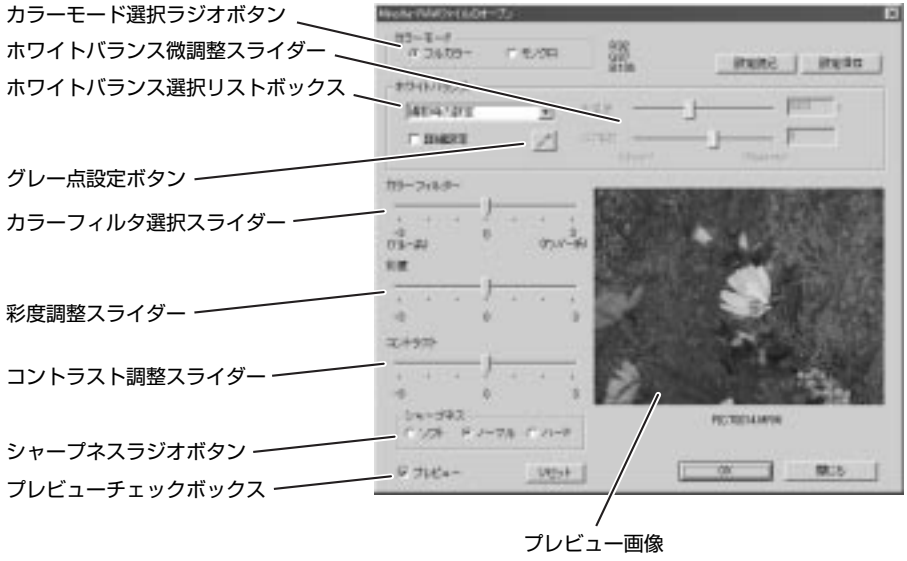
RAWファイルをビューウィンドウに表示する場合、RAWファイルオープンウィンドウで色調補正などを設定する必要があります。

1.ファイル一覧から、RAWファイルの画像を選択します。

2.[ファイル]-[ビュー表示]（Macintoshでは[ビューアで表示]）を選択します。

- **または画像をダブルクリックします。**

●以下のRAWファイルオープンウィンドウが表示されます。



パラメータの内容について

カラーモード	カラーモードを「フルカラー」と「モノクロ」から設定できます。 モノクロモードを選択した場合、カラーマッチング処理は行われません。
設定保存	設定したパラメータを設定ジョブとして保存できます。
設定読込	保存した設定ジョブを読み込んで、パラメータの内容を設定できます。
ホワイトバランス	ホワイトバランスを 撮影時の設定、晴天(昼光)、曇天、白熱灯、蛍光灯1、蛍光灯2 の中から選択できます。また、「詳細設定」にチェックマークを付けると、ホワイトバランスの詳細を設定できます。
カラーフィルター	画像にかけるカラーフィルタを「−3」から「+3」の間で設定できます。フィルタはマイナス側がブルー系、プラス側がアンバー系となり、6段階で設定できます。「0」に設定すると、カラーフィルタはかけられません。
彩度	彩度の強度を「−3」から「+3」の間で設定できます。
コントラスト	コントラストの強度を「−3」から「+3」の間で設定できます。 [カラー設定]の「カラーマッチング処理を行う」にチェックマークが付いており、「色空間」に「カメラオリジナル色空間」以外を設定している場合、コントラストの調整はできません（スライダーのつまみを動かしても何も変わりません)。
シャープネス	シャープネス強度を「ソフト」、「ノーマル」、「ハード」（Macintoshでは「弱」、「中」、「強」）の 3 段階から設定できます。
プレビュー	チェックマークを付けると、パラメータの変更をすぐにプレビュー画像に反映します。

カラーモード/ホワイトバランスの調整

1.カラーモードを設定します。

- 「フルカラー」または「モノクロ」のラジオボタンをオンにします。
- プレビュー画像上のカーソルを置いた点のRGBを表示します。

2.リストボックスから、ホワイトバランスを選択します。

3.ホワイトバランスの詳細を設定する場合、「詳細設定」にチェックマークを付けます。

- 色温度とCC指数のスライダーをドラッグして、ホワイトバランスを微調整します。

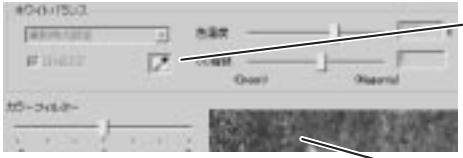
色温度を2500～10000Kの範囲で設定できます。

色温度とCC指数を数値入力できます。
当社製カラーメーターⅡ/ⅢFをご使用の方は、その測定値を入力できます。

グレー点設定ボタン

CC指数を－60～＋60の範囲で設定できます。

- CC指数とは、CC(Color Compensation)フィルターの番号に、グリーンの場合は[-]を、マゼンタの場合は[+]を付けた値です。
- 蛍光灯など輝線スペクトルを持った光源で撮影した場合は、測定値に補正が必要な場合があります。

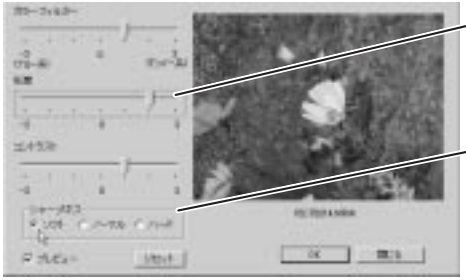


4. グレー点を設定する場合、グレー点設定ボタンをクリックします。

- グレー点設定ボタンは、「フルカラー」で「詳細設定」にチェックマークが付いているときにだけ操作できます。

5. プレビュー画像上のグレーにしたい部分をクリックします。
色温度とCC指数の数値が変わります。

カラーフィルタ/彩度/コントラスト/シャープネスの調整



1. スライダーをドラッグして、カラーフィルタ、彩度、コントラストを調整します。

2.「ソフト」、「ノーマル」、「ハード」（Macintoshでは「弱」、「中」、「強」）のいずれかのラジオボタンをオンにして、シャープネスを調整します。

パラメータの保存と実行

設定したパラメータを設定ジョブとして保存します。

1. [設定保存]をクリックします。

2. 設定ジョブに名前を付けます。

3. [保存]（Macintoshでは[OK]）をクリックします。

4. RAWファイルオープンウィンドウの[OK]をクリックします。

- 設定したパラメータを実行し、ビューウィンドウにRAWファイルが表示されます。RAWファイルパラメータウィンドウは閉じます。

パラメータ設定読込

保存した設定ジョブを読み込んで、RAWファイルパラメータウィンドウで開いたファイルのパラメータを変更できます。

1. [設定読込]をクリックします。

2. 保存ジョブの一覧から、パラメータに使用する設定ジョブを選択します。

3. [選択]（Macintoshでは[OK]）をクリックします。

- 読み込んだ設定ジョブのパラメータが反映されます。

文書画像処理

文書（写真や絵柄を含まない文字主体の印刷物）を普通のデジタルカメラで撮影すると、下地（紙の部分）がグレーに再現されてしまい、文字の読みにくい画像になります。
「文書画像処理」では、撮影した文書の下地を白くとばし、さらに文字を黒く引き締める処理をして、文字を読みやすくします。

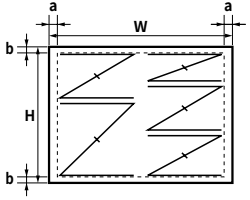
・文書画像処理の条件について
文書画像処理の補正効果を発揮させるには、撮影した文書画像が以下の条件を満たしている必要があります。

●当社製のデジタルカメラで撮影された画像であること
他社製のデジタルカメラで撮影した画像、およびスキャナ（当社製を含む）で作られた画像は対象外です。

●240×240ピクセル以上、かつ、3072×3072ピクセル以下の画像であること
上記以外の画像サイズの場合、エラーメッセージが表示されて、何も処理されません。

●以下の撮影条件を満たす画像であること
・P（プログラム）モード/オートホワイトバランスで撮影されている。
・デジタル撮影シーンセレクターや露出補正、彩度補正などの露出レベルや色味を変えるデジタル処理を一切施していない。
・正反射による白とびを避けるため、フラッシュは使用されていないことが望ましい。

●背景と文字のバランスについて
・背景（文字の無い）部分の面積が大きいと、背景を十分に白く飛ばすことができません。目安として、背景（文字の無い）部分の上下左右の幅が画像全体の幅の5%以下となるように、すなわち右図で、aの幅がWの幅の5%以下、bの幅がHの幅の5%以下、となるような構図で撮影された画像であることが望ましいです。



●文書画像処理のエラーについて

エラーメッセージ	内　容	対処法
画像の露出レベルが範囲外です	露出アンダーの画像に対して発生するエラーです。	[補正]-[画像補正]-[トーンカーブ・ヒストグラム補正]でオーバー側に補正してください。 補正の目安としては、緑(G)のヒストグラムの重心がほぼ中央になるように補正してください。 補正した画像に対して再度文書画像処理を施すには、一度補正した画像を保存する必要があります。
サポート範囲外の画像サイズです	画像サイズが合わない場合に発生するエラーです。	[ツール]-[リサイズ]で適合サイズに画像サイズを調整してください。

文書画像処理の実行

1. ファイル一覧から、文書画像ファイルを選択します。

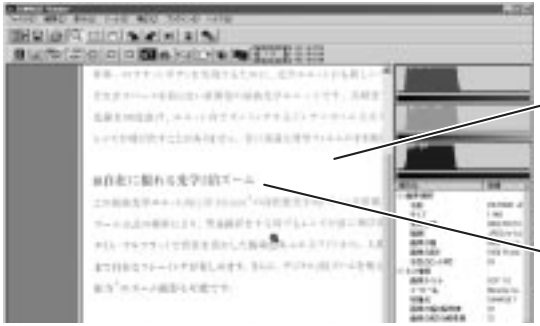
2. [ファイル]-[ビュー表示]を選択します。

・または画像をダブルクリックします。

- ビューウィンドウに選択した文書画像が表示されます。

3. [プラグイン]-[文書画像処理]を選択します。

- 文書画像処理が実行されます。
- 24ビット以外の画像の場合、[文書画像処理]は選択できません。



下地が白くなっています。

文字が黒く引き締まっています。

ファイルを移動する

ファイル一覧に表示しているファイルを別のフォルダに移動できます。

新規フォルダ作成ボタン

1. ファイル一覧から、別フォルダに移動するファイルを選択します。

2. [編集]-[別フォルダに移動]を選択します。

・または別フォルダに移動ボタンをクリックします。

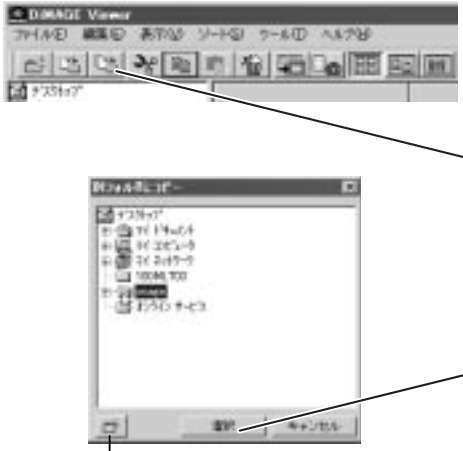
3. 移動先のフォルダをフォルダツリーから選択します。

4. [選択]をクリックします。

- 指定したフォルダにファイルが移動します。選択したファイルに付属するサムネイルファイル(*.THM)や音声ファイル(*.WAV)がある場合、そのファイルも一緒に移動します。ただし、動画ファイルを選択した場合、付属するファイルは移動しません。
- 新規のフォルダを作成する場合、新規フォルダ作成ボタンをクリックします。「新しいフォルダ」(Macintoshでは「名称未設定」)というフォルダが作られますので、必要に応じてフォルダ名を付けかえます。

ファイルをコピーする

ファイル一覧に表示しているファイルを別のフォルダにコピーできます。



1. ファイル一覧から、別フォルダにコピーするファイルを選択します。

2. [編集]-[別フォルダにコピー]を選択します。

・または別フォルダにコピーボタンをクリックします。

3. コピー先のフォルダをフォルダツリーから選択します。

4. [選択]をクリックします。

- 指定したフォルダにファイルがコピーされます。選択したファイルに付属するサムネイルファイル(*.THM)や音声ファイル(*.WAV)がある場合、そのファイルもコピーされます。ただし、動画ファイルを選択した場合、付属するファイルはコピーされません。
- 新規のフォルダを作成する場合、新規フォルダ作成ボタンをクリックします。前のページと同様に「新しいフォルダ」(Macintoshでは「名称未設定」)というフォルダが作られますので、必要に応じてフォルダ名を付けかえます。

ファイルを削除する

1. ファイル一覧から、削除したいファイルを選択します。

2. [編集]-[削除]を選択します。

・または削除ボタンをクリックします。

3. [はい]（Macintoshでは[OK]）をクリックします。

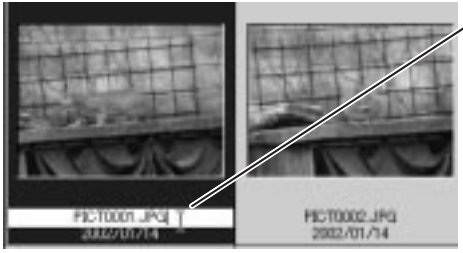
●指定したファイルが削除されます。選択したファイルに付属するサムネイルファイル（*.THM）や音声ファイル（*.WAV）がある場合、そのファイルも削除されます。ただし、動画ファイルを選択した場合は、付属するファイルは削除されません。

ファイル名を変更する

1.ファイル一覧から、名前を変更したいファイルを選択します。

2.[編集]-[名前の変更]を選択します。

- ファイル一覧のファイル名が反転表示され、入力可能になります。
- ファイル名を直接クリックしても同様の操作ができます。



3.新しいファイル名を入力します。

- 拡張子は自動的に付加されます。拡張子は変更しないでください。
- 変更したファイルに付属するサムネイルファイル(*.THM)や音声ファイル(*.WAV)がある場合、それらのファイル名も変更されます。ただし、動画ファイルを選択した場合は、付属するファイル名は変更されません。

フォルダを作成する

フォルダツリーに新しいフォルダを作成できます。

1. フォルダツリーから、新しいフォルダを作る場所を選択します。

2. [ファイル]-[フォルダ新規作成]を選択します。

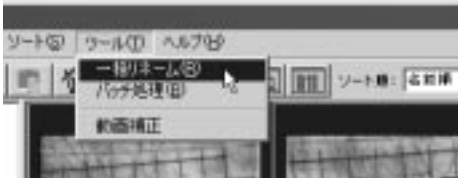
・またはフォルダ新規作成ボタンをクリックします。

● 選択した場所に、新しいフォルダが作られます。

3. 必要に応じて、フォルダツリー上でフォルダ名を入力します。

ファイル名を一括で変更する（一括リネーム）

複数のファイルの名前をまとめて変更できます。ファイル名は、「共通のファイル名＋通し番号」となり、拡張子は自動で付加されます。
デジタルカメラで撮影したファイルに固有の名前を付けて、ファイル管理したい場合などに便利です。



1. ファイル一覧から、名前を一括変更したいファイルを選択します。

2. [ツール]-[一括リネーム]を選択します。

3. 共通のファイル名を入力します。
- ファイル名は、全角5文字以内、または、半角10文字以内で入力してください。

4. 通し番号を入力します。
- 通し番号は、半角 5 桁以内で入力してください。

5. [OK]をクリックします。
- 選択したファイルの名前が変更されます。

例
5個のJPEGファイルを上記の設定で一括リネームすると、ファイル名は、DiMAGE0001.JPG、DiMAGE0002.JPG、DiMAGE0003.JPG、DiMAGE0004.JPG、DiMAGE0005.JPG となります。

動画の表示

DiMAGE Viewerでは、JPEGなどの静止画のほかに、MOVやAVIの動画ファイルも表示・編集できます。

1.ファイル一覧から、表示したい動画ファイルを選択します。

2.[ツール]-[動画補正]を選択します。

・または動画ファイルをダブルクリックします。

●Movie Enhancerが起動し、選択した動画ファイルが表示されます。

音量コントロールボタン
音声付き動画ファイルを開いたときにだけ表示されます。音量コントロールボタンにマウスポインタを合わせてマウスの左ボタンを押したままにすると、音量コントロールスライダが表示され、音量を調節できます。

スライダー

スライダーバー

1コマ送りボタン

1コマ戻りボタン

再生ボタン
(再生時は一時停止ボタンになります。)

3.再生ボタンをクリックすると、動画の再生が始まります。

動画の編集

動画はコマ（フレーム）、言い換えれば静止画を連続して再生することで、動きのある絵を見せることができます。Movie Enhancerでは、フレームを切り取ったりコピーして、ほかのフレームに挿入するなどのフレーム編集が行えます。

全フレームを編集する

選択した動画ファイルが開かれた直後は、**全フレームが編集対象として選択された状態**になっています。
全フレームに補正をかけたい場合、そのままの状態で[補正メニュー]の[フリッカー補正]または[動画補正]を選択します。

1フレームを編集する

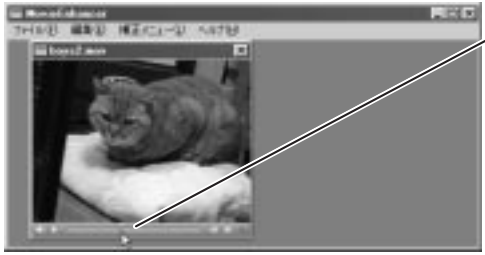
1.スライダーバーの適当な箇所をクリックし、全フレームの選択を解除します。

2.スライダーをドラッグして、編集したいフレームを表示させます。

- 1コマ送りボタンまたは1コマ戻りボタンをクリックして、編集したいフレームを表示させることもできます。
- 動画が静止しているとき、表示されている1フレームは選択されている状態となります。

3.フレームを切り取ります。またはコピーします。

- この状態で[編集]-[フレームの切り取り]（または[フレームのコピー]）を選択すると、1フレームが切り取られます（またはコピーされます）。



4. フレームの挿入先を表示します。

- スライダーを移動させ、切り取ったフレーム（またはコピーしたフレーム）を挿入する位置を表示させます。

5. [編集]-[フレームの貼り付け]を選択します。

- 切り取ったフレーム（またはコピーしたフレーム）が、スライダーで表示させた位置に挿入されます。

複数フレームを編集する

選択されたフレーム

1. 全フレームの選択が解除された状態で、複数フレームを選択します。<Shift>キーを押しながらスライダーをドラッグし、複数のフレームを選択します。

- 以降の操作は、「1フレームを編集する」の手順3～5と同じです。

動画の保存

現在、開いている動画に名前を付けて保存します。

1.[ファイル]-[保存]を選択します。

- 上書き保存する場合は、[上書き保存]を選択します。
- 上書き保存できるのは、MOVファイルのみです。

2.保存する場所を選び、ファイル名を入力します。

3.[保存]をクリックして保存します。

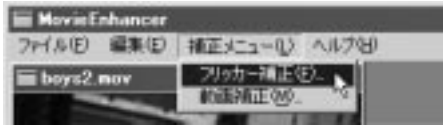
フリッカー補正

フリッカー補正とは、動画のちらつきを補正する機能です。フレーム内の画像に対し、均等に補正をかける全体補正と、フレーム内で局所的に発生しているちらつきに補正をかける局所補正の 2 種類があります。
フリッカー補正は、640×480ピクセル以下のサイズの動画に対してのみ行えます。
フリッカー補正を実行すると、自動で名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

・フリッカー補正の注意
- 撮影状況や動画の内容によっては、良好な補正結果が得られない場合があります。
- 低フレームレート、特に10fps未満の動画に対しては、良好な補正結果が得られない場合があります。また、動きの激しい被写体が撮影されている場合には、一部色相が正常に再現されないことがあります。

全体補正

1. フリッカー補正をかけたいフレームを選択します。
- フレームの選択方法は、85ページ「動画の編集」をご覧ください。



2. [補正メニュー]-[フリッカー補正]を選択します。

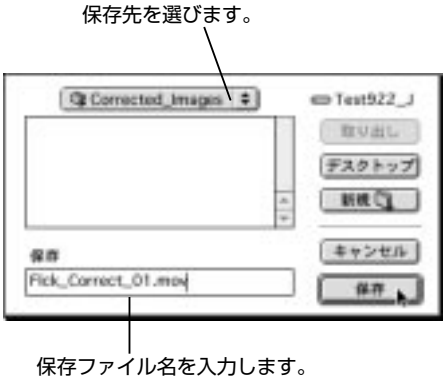
3. リストボックスから、「全体補正」を選択します。

4. [OK]をクリックします。

- 選択したフレームにフリッカー補正がかけられ、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。
- 当社製デジタルカメラDiMAGE 7/5/S304の動画ファイル（AVI形式の動画ファイル）の場合は、「CODECを変換しました」というメッセージダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス上の[OK]をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

5. フリッカー補正をかけた動画を保存します。

- 保存の手順は、37ページ「名前を付けて保存」をご覧ください（Windows®の場合）。
- Macintoshでは左図のダイアログが表示されます。保存先を選び、保存ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。



局所補正

1. フリッカー補正をかけたいフレームを選択します。

● フレームの選択方法は、85ページ「動画の編集」をご覧ください。

2. [補正メニュー]-[フリッカー補正]を選択します。

3. リストボックスから、「局所補正」を選択します。

4. [OK]をクリックします。

● 選択したフレームにフリッカー補正がかけられ、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

● 当社製デジタルカメラDiMAGE 7/5/S304の動画ファイル（AVI形式の動画ファイル）の場合は、「CODECを変換しました」というメッセージダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス上の[OK]をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

5. フリッカー補正をかけた動画を保存します。

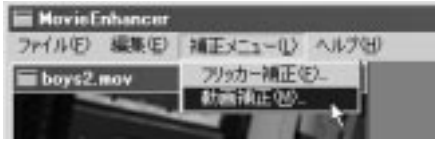
● 保存の手順は、37ページ「名前を付けて保存」（Macintoshの場合は前ページ）をご覧ください。

動画補正

動画補正では、動画の色調を補正できます。
動画補正は、640×480ピクセル以下のサイズの動画に対してのみ行えます。
また、１つの動画ファイルに対してフリッカー補正と動画補正の両方を行いたい場合は、フリッカー補正を先にかけてから動画補正を行うことをお勧めします。

1.動画補正をかけたいフレームを選択します。

●<Shift>キーを押しながらスライダーをドラッグし、フレームを選択します。
複数フレームを選択しなかった場合、現在表示されている１フレームだけに補正がかけられます。



2.[補正メニュー]-[動画補正]を選択します。

●動画補正ダイアログボックスが表示されます。

簡易設定

1.「確認シーン設定」のスライダーをドラッグし、「補正確認」に使用するフレームを選択します。

●選択したフレームが「オリジナル」に表示されます。

2.リストボックスから、「簡易設定」を選択します。

3.各補正項目の補正レベルを設定します。

●「弱め」、「普通」、「強め」のいずれかのラジオボタンをオンにします。

4.[プレビュー]をクリックし、補正後のイメージを確認します。

5.[OK]をクリックします。

●動画全体に設定した色調補正がかけられ、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

●当社製デジタルカメラDiMAGE 7/5/S304の動画ファイル(AVI形式の動画ファイル)の場合は、「CODECを変換しました」というメッセージダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス上の[OK]をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

6.動画補正をかけた動画を保存します。

●保存の手順は、37ページ「名前を付けて保存」(Macintoshの場合は89ページ)をご覧ください。

詳細設定

1.「確認シーン設定」のスライダーをドラッグし、「補正確認」に使用するフレームを選択します。

●選択したフレームが「オリジナル」に表示されます。

2.リストボックスから、「詳細設定」を選択します。

3.各補正項目のリストボックスから、補正レベルを選択します。

●詳細設定の補正レベルには、以下の 5 種類があります。

自動　　：自動で補正します。
補正なし：補正を行いません。
弱め　　：弱めの補正を行います。
強め　　：強めの補正を行います。
手動設定：手動で補正レベルの強弱を設定できます。

「手動設定」を選択すると、スライダーをドラッグして補正レベルの強弱を設定できます。

4. [プレビュー]をクリックし、補正後のイメージを確認します。

5. [OK]をクリックします。

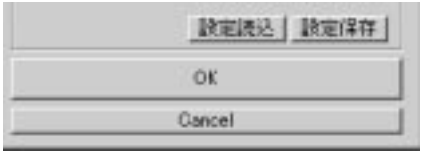
- 動画全体に設定した色調補正がかけられ、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。
- 当社製デジタルカメラDiMAGE 7/5/S304の動画ファイル(AVI形式の動画ファイル)の場合は、「CODECを変換しました」というメッセージダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス上の[OK]をクリックすると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

6. 動画補正をかけた動画を保存します。

- 保存の手順は、37ページ「名前を付けて保存」(Macintoshの場合は89ページ)をご覧ください。

詳細設定の保存

詳細設定の内容を設定ジョブとして保存できます。



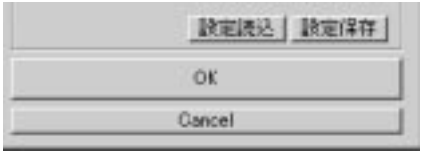
1.詳細設定の各補正項目を設定します。

2.[設定保存]をクリックします。

- 設定した内容が設定ジョブとして保存されます。

詳細設定の読込

保存した詳細設定の設定ジョブを読み込んで、各補正項目を設定できます



1.[設定読込](Macintoshでは、[設定読出])をクリックします。

- 設定ジョブが読み込まれ、各補正項目が設定されます。

アプリケーション登録

DiMAGE Viewerには、ほかのアプリケーションの起動メニューおよびアイコンを登録する機能があります。
登録したアプリケーションは、ファイル一覧ウィンドウから起動できるようになります。

1. [ファイル]-[初期設定]を選択します。

- 初期設定ダイアログボックスが表示されます。

2. [参照]をクリックします。

- ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。

3. 登録するアプリケーションの実行ファイルが入っているフォルダを選択します。

4. 登録するアプリケーションの実行ファイルを選択します。

5. [開く]をクリックします。

- ファイルを開くダイアログボックスが閉じます。

6. [登録]をクリックします。

7. [OK]をクリックします。

- 選択したアプリケーションが登録されます。

ビューアの登録

お買い上げ直後には、DiMAGE Viewerの静止画ビューアにはビューウィンドウが、動画ビューアにはMovie Enhancerが登録されています。これ以外のビューアを使用したいとき、[初期設定]メニューで登録できます。
ここでは、動画ビューアの登録を例に説明します。登録手順は、静止画ビューアの場合も同様です。

1.[ファイル]-[初期設定]を選択します。

- 初期設定ダイアログボックスが表示されます。

2.「動画ビューア」の[それ以外]のラジオボタンをオンにします。

3.「動画ビューア」の[参照]をクリックします。

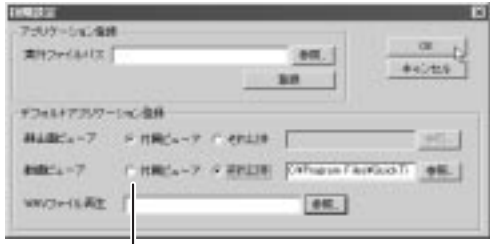
- ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。

4.登録するアプリケーションの実行ファイルが入っているフォルダを選択します。

5.登録するアプリケーションの実行ファイルを選択します。

6.[開く]をクリックします。

- ファイルを開くダイアログボックスが閉じます。



元に戻すときは「付属ビューア」の
ラジオボタンをオンにします。

7. [OK]をクリックします。

- 選択したアプリケーションが、デフォルトの動画ビューアとして登録されます。
  次回からサムネイルの動画ファイルをダブルクリックすると、登録した動画ビューアが起動します。

音声ファイル再生アプリケーションの登録

ファイル一覧には、音声(WAV)ファイルも表示されます(サムネイル画像の代わりに♪が表示されます)。また、静止画像と同じファイル名の音声ファイルがある場合、静止画像のサムネイル上に♪マークが表示されます。
音声ファイル再生用のアプリケーション(Windows Media Player, QuickTime Playerなど)を登録しておくと、ファイル一覧に表示されている音声ファイルを再生することができます。

1.[ファイル]-[初期設定]を選択します。
- 初期設定ダイアログボックスが表示されます。

2.「WAVファイル再生」の[参照]をクリックします。
- ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。

3.登録するアプリケーションの実行ファイルが入っているフォルダを選択します。

4.登録するアプリケーションの実行ファイルを選択します。

5.[開く]をクリックします。
- ファイルを開くダイアログボックスが閉じます。

6. [OK]をクリックします。

- 選択したアプリケーションが、音声ファイル再生用のアプリケーションとして登録されます。
  次回からファイル一覧の音声ファイルをダブルクリックすると、登録したアプリケーションが起動して、音声が再生されます。
- ファイル一覧の静止画像に♪マークが付いている場合、そのマークをクリックすると登録したアプリケーションが起動して、音声が再生されます。

登録したアプリケーションを呼び出す

「アプリケーション登録」で登録したアプリケーションは、起動メニューおよびアイコンから起動できます。

1. ファイル一覧から、画像を１つ選択します。

2. [ファイル]-[アプリケーションを開く]を選択します。

アイコン上に画像をドラッグアンドドロップしても起動します。

3. [アプリケーションを開く]のプルダウンリストから、使用するアプリケーションを選択します。

- アプリケーションが起動し、画像ファイルを開きます。

カラーマッチング

画像データは出力機器（モニターやプリンタ）の特性によって、再現される色や階調が異なります。出力機器による色の再現性の違いを少なくするには、色を扱う環境（＝出力カラースペース、色空間）を決めて、その環境や出力機器の特性に色を合わせる必要があります。

- ディマージュカメラでは主観的に好ましい画像を目指して絵作りを行なっており、必ずしもカラーマッチング処理を行なう必要はありません。カラーマッチング処理を行なうとディマージュの絵作りが無視され、測色的な色再現が行われます。
- 機種によってはカメラ側でコントラスト・彩度調整を行なえる場合もありますが、これらの調整を行なうと忠実な色再現はなされません。

色空間を決める

ファイル保存時に使用する色空間を設定します。

1. [ファイル]-[カラー設定]を選択します。
カラー設定ダイアログボックスが表示されます。

2.「カラーマッチング処理を行う」（Macintoshでは「カラーマッチング処理する」）にチェックマークを付けます。

3.「色空間」のリストボックスから、カラーマッチングに使用する色空間を選択します。

4. [OK]をクリックします。

出力カラースペース

カメラオリジナル色空間（sRGB）
カメラオリジナル色空間（AdobeRGB）
どちらも、カメラ固有の色空間を保持します。

*【注意】①カメラのカラーモード設定で「AdobeRGB」を選び、かつ、**撮影時にプロファイルを埋め込んでいない**場合は、かならず **カメラオリジナル色空間（AdobeRGB）を選択してください**。他の色空間を選ぶと、正しくない色に変換されることがあります。*

*②カメラのカラーモード設定で「AdobeRGB」を選んでいない場合、または、お使いのカメラのカラーモード設定に「AdobeRGB」がない場合は、**カメラオリジナル色空間（AdobeRGB）は選択しない**でください。*

*③お使いのカメラのカラーモード設定に「AdobeRGB」がない場合で、カメラ固有の色空間を保持したい場合は、**カメラオリジナル色空間（sRGB）を選択**してください。*

sRGB	Hewlett PackardおよびMicrosoftにより推進された色空間です。平均的なPCモニターの特性を反映しているため、Webでの表示用に画像を扱う場合に使用されています。一方、他のカラースペースに比べ再現できる彩度再現領域が狭いため、専門的なプリプレス等には不向きです。インターネットやマルチメディアを基準において提案されており、世界で広く使われています。
Apple RGB	以前からのApple13型のAppleシステムに基づいています。Adobe Illustrator や Adobe Photoshop 4以前のバージョンなどで初期設定用として使用されていたため、DTP（デスクトップパブリッシング）などで広く使われてきた色空間です。sRGBより広い色域で、印刷を目的とした場合によく用いられます。

SMPTE-C	現在の米国でのテレビ放映の基準です。米国のテレビ放映用に作業する場合に最適です。
PAL/SECAM	ヨーロッパでのテレビ放映の基準です。ヨーロッパのテレビ放映用に作業する場合に最適です。
ColorMatch RGB	Radius PressViewモニターを最適に使用するカラースペースです。このモニターはプリプレス業界で一般的に使用されていて、広い色域を有しています。
Adobe RGB	ColorMatch RGBよりさらに色域が広く、プリプレスなどでより広範囲におよぶカラーが必要な場合には最適なスペースです。ただし印刷不可能なカラー（CMYKで表現できないカラー）がより多く含まれています。
広範色域RGB	分光的に純粋な色度座標を使用して、非常に広範囲にわたるカラーを提供します。ただしこの色域のカラーのほとんどは標準的なコンピュータのモニターでは表示できず、印刷もできません。
NTSC	日米での地上波アナログ・カラー・テレビの放送方式で、ビデオ製作の場合に使用されています。
CIE RGB	CIE（Commission Internationale d'Eclairage）で定義されたRGBカラースペースです。
ICCプロファイル使用	ICCプロファイルで指定したRGB系色空間に合わせ込んだ色で再現します（106ページ参照）。

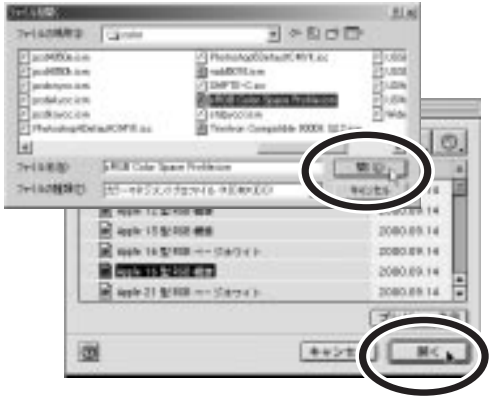
ここは空白ページです。

色空間－ICCプロファイルの設定

「色空間」のプルダウンリストにない色空間を使用したい場合に、RGB系色空間プロファイルを設定します。

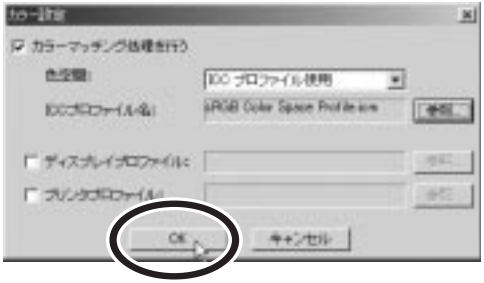
1.「色空間」のリストボックスから、「ICCプロファイル使用」を選択します。

2.「ICCプロファイル名」の[参照]をクリックします。



3. ICCプロファイルを選択します。

4. [開く]をクリックします。



5. [OK]をクリックします。

ディスプレイICCプロファイルの設定

表示用画像に使用するディスプレイICCプロファイルを設定します。
この設定を行うと、画像表示の処理が遅くなります。

1.「カラーマッチング処理を行う」(Macintoshでは「カラーマッチング処理する」)にチェックマークを付けます。

2.「ディスプレイプロファイル」(Macintoshでは「ディスプレイプロファイル名」)にチェックマークを付けます。

3.「ディスプレイプロファイル」(Macintoshでは「ディスプレイプロファイル名」)の[参照]をクリックします。

4. ご使用のカラーモニターのICCプロファイルを選択します。

5. [開く]をクリックします。

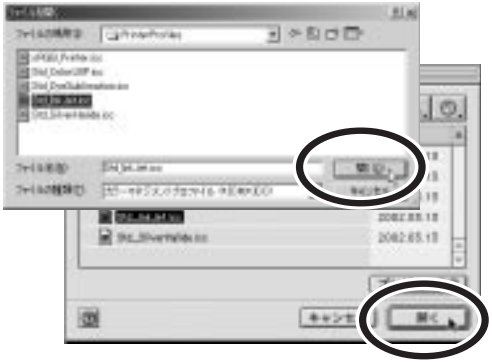
6. [OK]をクリックします。

プリンタICCプロファイルの設定

ご使用になっているプリンタの特性に色を合わせるには、お使いのプリンタのICCプロファイルを設定する必要があります。

1.「カラーマッチング処理を行う」（Macintoshでは「カラーマッチング処理する」）にチェックマークを付けます。

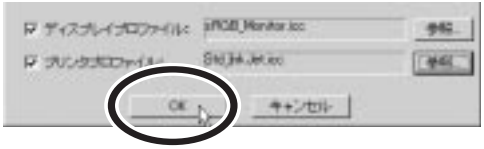
2.「プリンタプロファイル」（Macintoshでは「プリンタプロファイル名」）にチェックマークを付けます。



3.「プリンタプロファイル」（Macintoshでは「プリンタプロファイル名」）の[参照]をクリックします。

4. ご使用のプリンタのICCプロファイルを選択します。

5. [開く]をクリックします。



6. [OK]をクリックします。

ICCプロファイルについて

ICCプロファイルは、通常以下のフォルダ内に収められています。

Windows®XP	起動ディスク-[WINDOWS]-[system32]-[spool]-[drivers]-[color]
Windows®2000	起動ディスク-[WINNT]-[system32]-[spool]-[drivers]-[color]
Windows®Me/98/98SE	起動ディスク-[Windows]-[System]-[Color]
Macintosh（Mac OS 9.x）	起動ボリューム-[システムフォルダ]-[ColorSyncプロファイル]
Macintosh（Mac OS X）	/Library/ColorSync/Profiles/Display

また、アプリケーションのインストール時に、以下のICCプロファイルも一緒にインストールされます。

●モニタ用プロファイル

インストール先（Windows®）
起動ディスク−[Program Files]-[DiMAGE Viewer]-[Profiles]-[MonitorProfiles]
または、[アプリケーションインストール先フォルダ]-[Profiles]-[MonitorProfiles]
インストール先（Mac OS 9.x）
起動ボリューム−[システムフォルダ]-[初期設定]-[7300]-[Profiles]-[MonitorProfiles]
インストール先（Mac OS X）
/Library/Preferences/7300/Profiles/MonitorProfiles

- sRGB_Monitor.icc　：sRGBモニタ用プロファイル（Windows®版のみ）
- Std_Monitor.icc　：標準モニタ用プロファイル※
- AppleRGB_Monitor.icc　：Appleモニタ用プロファイル（Macintosh版のみ）

●プリンタ用プロファイル

インストール先（Windows®）
起動ディスク−[Program Files]-[DiMAGE Viewer]-[Profiles]-[PrinterProfiles]
または、[アプリケーションインストール先フォルダ]-[Profiles]-[PrinterProfiles]
インストール先（Mac OS 9.x）
起動ボリューム−[システムフォルダ]-[初期設定]-[7300]-[Profiles]-[PrinterProfiles]
インストール先（Mac OS X）
/Library/Preferences/7300/Profiles/PrinterProfiles

・sRGB_Printer.icc　　：sRGBプリンタ用プロファイル
・Std_ColorLBP.icc　　：カラーレーザービームプリンタ用プロファイル※
・Std_DyeSublimation.icc　：昇華型プリンタ用プロファイル※
・Std_InkJet.icc　　：インクジェットプリンタ用プロファイル※
・Srd_SilverHalide.icc　　：銀塩プリンタ用プロファイル※

※印の付いたプロファイルは、何社かの製品の平均的な特性を記述したものです。したがって、お使いのモニタやプリンタで適切な結果が得られるとは限りませんのでご注意ください。

ICCプロファイルについて

カラーモニターのICCプロファイルとは、そのモニターの色再現特性が記述されているファイルのことで、モニターメーカーから提供されます。インターネット上のモニターメーカーのWebサイトから入手(ダウンロード)できる場合もあります。ICCプロファイルのインストール方法などについては、お使いのモニターの取扱説明書をご覧ください。
カラーモニターのICCプロファイルは、市販のプロファイル作成ツールを用いて作成することもできます。またWindowsではAdobe Photoshop Elementsなどに付属の「Adobe Gamma」を用いて、MacintoshではOS付属の「モニタ調整アシスタント」機能を用いて簡易的に作成することもできます。

カラーマッチング処理を行なった画像を保存すると、その画像ファイルには、設定したカラースペースのICCプロファイルデータが埋め込まれます。これらの画像ファイルをカラーマッチング機能を持ったアプリケーションソフト(Adobe Photoshop 5.0以降等)で開くと、付加されているプロファイル情報が読み取られ、その色情報がアプリケーション側に伝わります。詳しくはアプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。

対応ファイルの一覧

このソフトウェアでは、カメラ内のカードから直接ファイルを開くだけではなく、パソコンにコピーや保存されたファイルも開くことができます。対応しているファイルの形式と種類は以下の通りです。

ファイル形式（拡張子）	対応しているファイルの種類	画像ﾌﾞﾗｳｻﾞｳｨﾝﾄﾞｳでのｻﾑﾈｲﾙの表示	ﾋﾞｭｰｳｨﾝﾄﾞｳでの表示・再生	左記ﾌｧｲﾙ形式での保存
JPEG（*.JPG,*.JPE）	・Exif Print準拠 ・JFIF（24bitフルカラー）	○	○	○
TIFF（*.TIF）	・Exif Print準拠 ・非圧縮RGB 24bit/48bit	○	○	○
BMP（*.BMP）	フルカラー24bit（Windows版のみ）	○	○	○
PICT（*.PCT,*.PIC）	フルカラー32bit（Macintosh版のみ）	○	○	○
Minolta-RAW（*.MRW）	DiMAGE 7 以降の当社デジタルカメラ（RAW 対応機種）で撮影されたRAWファイル	○	○	×
MOV（Movie）（*.MOV）	QuickTimeで読み込み可能なMOVファイル	○	△[1]	△[3]
AVI（*.AVI）	QuickTimeで読み込み可能なAVIファイル	○	△[1]	△[4]
WAV（WAVE）（*.WAV）		○（音符記号で表示）	△[2]	×

○ ：可　　×：不可

△[1]：付属の動画補正アプリケーションで再生可

△[2]：あらかじめ登録（指定）しておいた再生アプリケーションを呼び出すことで再生可

△[3]：付属の動画補正アプリケーションで保存可

△[4]：そのままのファイル形式では保存できませんが、MOVファイルに変換して保存可

対応ファイルに関しては、当社製デジタルカメラ（DiMAGE 7以降の機種）で撮影したExifファイルで確認しています。他社製デジタルカメラで撮影したファイルや、他のアプリケーションで加工し、保存したファイルは開くことができない場合があります。

ユーザーサポートについて

本ソフトウェアについて何か問題が生じたときは、裏表紙記載のフォトサポートセンターにお問い合わせください。その際、以下の情報をお手元にご用意いただけますと、問題解決の一助になります。

◎パーソナルコンピュータの種類
（IBM-PC/AT互換機、NEC PC98-NXシリーズ、Apple Macintoshシリーズ 等）
◎パーソナルコンピュータの型番（名称）
（VAIO、DynaBook、LaVie、Power Mac G4 等）
◎オペレーティングシステム（OS）の種類とバージョン
（Windows®XP Home Edition、Mac OS X 10.1.5 等）
◎メモリ容量
（Windows®/Macintosh（Mac OS X）では実装メモリ容量、Macintosh（Mac OS 9.x）ではOSや他のアプリケーションが使用している領域を除いた空き容量）
◎本ソフトウェアインストール後のハードディスク空き容量
◎接続している周辺機器
◎本ソフトウェアのバージョン（CD-ROMのレーベル面でご確認ください）

◎問題発生の頻度
◎再現性
◎現象
（どんな状況で、どのような操作をして、どのような症状が発生したか、できるだけ具体的に）

使用環境等についての最新の互換性情報については、弊社フォトイメージングのホームページ http://www.photo.minolta.co.jp もご参照ください。

ミノルタ株式会社

ホームページ

個々の製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下フォトイメージングのホームページをご覧ください。
http://www.photo.minolta.co.jp/

弊社デジタル製品の商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.dimage.minolta.co.jp/

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00～18:00 (日・祝日定休)

1AG6P1P1610--
V2.1.2 9223-7300-31 SY-A302